

## 和仏法律学校講義録

副島, 義一 / 勝本, 勘三郎 / 竹井, 耕一郎 / 秋山, 雅之介

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

3-20

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

43

(発行年 / Year)

1899-11-30

昭和十一年



# 法律學講義

## 筆記

每月一回

第貳拾號

目次

戰時國際公法(自三五頁) 法學士 秋山雅之介

刑法各論(自三二頁) 法學士 勝本勘三 此勅令

行政法(自四四頁) 法學士 竹井耕一郎 民

憲法(自三五頁) 法學士 副島義一



090  
1899  
3-1-20

則アモ之ニ對シテ施行シ得ヘキヲ以テ前項勅令ニ於テモ第二條以下ノ規定ニ於テ清國人民ハ其任所職業等ヲ府縣知事ニ申出テ其登錄ヲ受ケシメ登錄證書ヲ交付シ其登錄ヲ請ハサルモノハ帝國版圖外ニ退去セシムルヲ得ヘキコトヲ定メ及ヒ第六條ニ於テ清國臣民ニシテ帝國ノ利益ヲ害スル所爲アル者犯罪ノ所爲アル者秩序ヲ紊亂スル者又ハ以上ノ嫌疑アル者ハ各法令ニ依テ處分スルノ外府縣知事ハ仍之ヲ帝國版圖外ニ退去セシムルコトヲ得ト規定シ更ニ開戦後ニ於テ清國臣民ノ我國ニ入り來ルニ付テハ第九條ニ於テ内務大臣ノ特許ヲ得タル者ニ限ルコトヲ規定セリ此等規定ハ國際法上一點ノ批難スヘキ所ナキノミナラス其規定ノ用意最モ周到ナルモノト云ハサルヲ得ス然レトモ此勅令ノ實行ニ際シテ清國人ハ國籍ヲ有スル外國人ナリトノ故ヲ以テ課税ヲ免セタルハ理論上其當ヲ得サルノ疑ナキヲ得ス何トナレハ從來我國ニ於テ外國人民ニ課税ヲ免シタルハ國籍ヲ有スル外國人民タルカ故ニ非スシテ領事裁判ノ制度ヲ有スル條約國民ニ限リ其免稅ヲ爲スノ條約上ノ規定アルニ因ルニ外ナラサレハナリ而シテ戰爭ハ馬關條約ニモ言明スル如ク兩國ノ條約ヲ無効トナシ

タルモノナレハ開戦ト共ニ内地ニ在留スル清國臣民ニ對シ課税スヘカザサル理由ナク又既ニ法律上ノ保護ヲ受クルニ於テハ之ニ對シテ納税ノ義務ヲ有スルハ勿論ニシテ之ニ免税スルハ敵國人民ヲ他ノ無條約國人及ヒ免税ノ規定ナキ條約國人民ニ比シ不必要不條理ノ優待ヲ與フルモノト云ハサルヲ得ス

第三項 内地ニ於ケル敵國財産ニ對スル効果

英國ニ於テハ千二百十五年ジョージ王ノ大憲章ニ規定アリテ英國ハ自國ニ在ル敵國人民並ニ其財産ノ取扱ニ付テハ敵國領内ニ於ケル自國人民並ニ財産ニ對シテ敵國政府ノ爲シタルト同一ノ處分ヲ爲スヘキコトヲ定メアルニ拘ハラス古來英國ノ採リ來リタル方針ハ開戦ニ當リテ敵國政府ノ行爲如何ヲ問ハス自國ニ在ル敵國財産ヲ掠奪沒取スルヲ常トシ千八百五十四年英露佛戰爭ニ至ル迄ハ英國法學者モ亦此權利ハ戰爭ノ宣告ニ伴フヘキモノト看做シ其他歐洲諸國ニ於テ第十七世紀ノ初ニ至ルマテハ開戦ト共ニ自國ニ在ル敵國政府並ニ人民ノ不動産及ヒ商品其他ノ動産並ニ之ニ關スル權利ヲモ悉ク沒取シ得ヘキモノト爲シ此原則ハ最も嚴重ニ適用サレ來リタル所ニシテ同世紀中ニ於テ敵國

人民ニ對スル取扱ノ寛大ト爲リタルト同時ニ其財産ニ對スル敵意ノ行爲モ漸ク寛恕ト爲リ土地ニ付テハ其收入ハ沒取スルモ土地其モノハ沒取セサルノ慣習ヲ生シ第十八世紀ニ至リテ土地ハ全ク沒取セサルコト、爲リタレトモ其他ノ財産ハ或ハ沒取セラレ或ハ差押ラレタルコトアリ殊ニ商品ニ付テハ諸國ノ條約ヲ以テ開戦ノ節ハ其取り去ルコトニ付テ猶豫ノ時日ヲ與フルノ規定ヲ設ケタルモノ千七百六十六年英露條約ヲ始トシテ其例夥シ然レトモ此時代ニ於テモ尙ホ敵國ノ財産ヲ沒取スルノ原則ハ依然トシテ存在シ國際法學者ノ之ヲ批難シ開戦ノ當初ニ於テ敵國ニ屬スル船舶其他ノ財産ヲ掠奪スルノ行爲ハ必竟スルニ敵國ヨリ掠奪物トシテ取得スヘキ財産ノ數ヲ増加スル爲メノ外何タル理由ノ別ニ存スルコトナクシテ其沒取ハ一般信用上ノ破壞ト看做シ來リタルニ拘ハラス商品以外ノ財産ハ勿論條約上ノ規定アルニ非サレハ商品ト雖モ沒取セラルルヲ普通トシ千八百十二年英米戰爭ニ際シテモ米國高等裁判所ハ此點ニ關シテ判決ヲ與ヘテ曰ク政府ハ自國領内ニ於ケル敵國ニ屬スル財産並ニ自國領内ニ在ル敵國ノ船舶及ヒ積荷ハ開戦ノ爲メ沒取シ得ヘキ權利ヲ有スル

コトハ疑ナキモ此權利ヲ實行スルト否トハ全ク國會ノ意思如何ニ在ルコトナレハ之ヲ實行スヘキ法律ノ發布ナキ以上ハ法廷ニ於テ其沒收ヲ言渡スノ權能ナキモノト爲シ就中有名ナル「ストーリー」判事ハ之ニ反對ノ意見ヲ唱ヘ別ニ立法府ヨリ法律ノ發布ナクシテ敵國ノ財産ヲ沒取シ得ヘキハ是レ國際公法上正當ナル行爲ナリト論セリ斯ク開戦ニ際シテ自國領内ニ在ル敵國政府並ニ人民ニ屬スル財産ヲ沒取スルノ權利ニ付テハ今世紀ニ於テスラ其法則ノ存否ニ付キ議論アルコトナレトモ實際ニ於テハ此法則モ寬大ト爲リ「ナボレラン」戰爭後之ヲ實行シタルハ千八百六十一年米國內亂ニ於テ南北軍ノ互ニ其財産ヲ沒收シタルノ外其實例ナク千八百五十三年露土戰爭ニ於テハ兩國ハ互ニ敵國ノ船舶ヲ開戦ノ際沒收又ハ差押ヘサルコトト爲シ千八百五十四年英佛露戰爭ニ於テハ英佛兩國ハ自國領内ヨリ露國船舶ノ退去ニ付キテ六週間ノ猶豫ヲ與ヘ露國モ亦兩國船舶ニ對シテ同一ノ猶豫ヲ與ヘタルカ如キ方今ニ於テ嘗ニ敵國財産ヲ沒收セサルノミナラス敵國人民ノ自國ニ在留ヲ許スヲ普通トシ而シテ其財産ヲモ保護スヘキコトト爲リ又若シ退去ヲ命スル場合ニ於テモ其財産ヲ取纏

メテ退去ヲ爲ス時日ヲ與ヘ船舶ニ關シテハ普通其到達地ニ遁ル、ニ必要ナル時日ヲ與フルニ至リ内地ニ於ケル敵國政府又ハ人民ニ屬スル財産ヲ沒收スルノ法則ハ現今ニ於テハ寧ロ陳腐ニ屬シ之ヲ實行スルハ不正ニシテ信用ノ破壞トシテ國際上ノ慣習ニ於テ許ササル所ト爲レリ又敵國政府若クハ人民ニ對スル交戰國ノ政府又ハ人民ノ負債ニ付テモ歐洲古代ノ慣習ニテハ開戦ト同時ニ沒收セラレヘキモノト爲シタリシカ財産ニ比スレハ之ヲ沒收セサルニ至リタルハ稍早キ時代ニ於テシ「ドロシヤ」モ敵國人民ニ對スル負債ハ戰爭中其要求ノ權利ヲ中止シ平和ト共ニ恢復スヘキ者ト爲シ千七百二十七年「ビンケル」著書ニ於テモ同一ノ說ヲ述ベ其後二十年ニ於テ「バタ」著書ニ於テモ敵國政府並ニ人民ニ對スル負債ニ付テハ歐洲中既ニ之ヲ沒收セサルノ慣習ヲ生シ各國政府ハ此慣習ヲ遵守スヘシトノ確信ヲ以テ貸借ヲ爲シタルニ拘ハラズ開戦ニ於テ之ヲ沒收スルハ列國ニ對シテ自國ノ信用ヲ破リタルノ行爲ト看做サ、ルヲ得ストセルヲ見ルモ第十八世紀ノ初ニ於テハ既ニ負債ヲ沒收セサル慣例モ稍確定シタルヲ證スヘタ英佛西等ノ諸

國モ亦一般ニ此慣習ニ因リ行動シ殊ニ英國ニ於テハ海上法ニテ敵國ノ財産ヲ沒收スルノ原則ヲ取リタルニ拘ハラス素ト同國ハ商業國ナルヲ以テ若シ開戦ニ由リ交戦國間ノ負債ヲ無効ト爲スニ於テハ大ナル損害ヲ被ルヘキニ因リ負債ニ關シテノミ沒收セサルノ原則ヲ適用シ來リ戰爭中ハ單ニ債權ノ行使ヲ中止シ平和ト共ニ其効力ヲ恢復シ得ヘキト爲シ千八百七年丁抹國トノ戰爭ニ於テ英國ハ開戦ニ先チ自國港内並ニ公海ニ於ケル丁抹國ノ船舶及ヒ物品ヲ捕テ沒收シタルヲ以テ丁抹國政府ハ赦令ヲ以テ自國人民ノ英國人民ニ對スル負債ヲ悉ク沒收シテ政府ニ納ムヘキコトヲ發布セリ然ルニ平和ノ後英國人民ハ丁抹國人民ニ對シテ負債返却ノ訴ヲ起シタルニ英國法廷ハ判決ヲ下シテ曰ク丁抹國政府ノ勅令ハ百餘年來列國ノ慣例ニ反シ國際公法ニ矛盾ストノ理由ヲ以テ其勅令ハ負債請求ニ對スル抗辯ノ理由トナラストセリ此判決ハ法學者ノ最も批難スル所タリ何トナレハ固ヨリ負債ノ沒收ハ國際公法ノ慣例ニ背反スルコトハ論ナシト雖モ自國ニ在ル敵國財産ノ沒收モ亦列國ノ慣例上均シク許ササル所ニシテ既ニ財産ヲ沒收シ得ヘシトセハ負債ニ限リ沒收スヘカラサルノ

理由存スルコトナシ然ルニ英國ハ丁抹國ノ財産ヲ沒收シナカラ丁抹國政府ノ其負債ヲ沒收スルコト能ハストスル自家擅着ノ論タラサルヲ得サルヲ以テナリ隨テ方今ニ於テハ既ニ敵國ノ財産モ負債ト均シク沒收スルコトハ慣例上許ササル所トナリ諸國ノ之ヲ實行スルモノナキニ至リタルコトナレトモ若シ敵國ニ於テ不法ノ行爲ヲ爲スコトアルニ於テハ報復ノ手段トシテ敵國ノ財産又ハ負債ニ對シテ差押又ハ沒收ヲ行ヒ得ヘキハ多言ヲ要セスシテ明白ナリトス

## 第二章 戰地ニ於ケル敵國人民ニ對スル權利

戰爭ニ由リ交戦國間ニ存在シ來リタル平和ノ交通通商ノ關係並ニ交戦國ノ版圖内ニ在ル敵國人民並ニ其財産ニ對スル權利關係ハ前章ニ於テ詳述セリ然レハ戰地ニ於ケル敵國人民及ヒ其財産ニ對スル交戦國ノ權利ハ如何ニト云フニ第十八世紀迄ハ原則上敵國人民並ニ其財産ニ對シテハ如何ナル行爲ヲモ爲シ得ヘク其生命財産ニ關シテ無制限ナル行爲ノ自由ヲ有スルモノトシ單ニ自然法又ハ字內法ト名タル道理或ハ人情ニ基ケル慣例ニ由リ其自由ノ行爲ヲ制限

シタルニ過キス然ルニ世ノ文明ニ赴クニ從ヒ同世紀中ニ於テ此嚴重ナル戰爭ニ關スル原則ノ適用ヲ減却スルノ道理ヲ生シ其制限の道理ハ遂ニ其源流ナル原則自體ノ上ニ効力ヲ占ムルニ至レリ即チ所謂制限の道理トハ戰爭ニ適用スヘキ暴力ハ戰爭ノ目的ニ相當スル必要ヲ超過スヘカラスト云フニ在リテ戰爭ノ目的トスル所ハ固ヨリ敵國人ヲ攻撃スルニ在ルコトナントモ必スシモ其人並ニ財產ヲ撲滅スルニ非スレテ敵國ノ兵力抵抗ヲ除去スルニ在リ何トナレハ敵國ノ我要求ニ應セスシテ戰爭ト爲リタル所以ハ敵國ニ兵力抵抗力ノ存スルニ由ルコトナレハ其抵抗力ヲ除クニ於テハ敵國ニ於テ自ラ我要求ヲ容レサルヲ得ス隨テ戰爭ノ起因ト爲リタル交戰國ノ目的モ達スヘキヲ以テナリ此理由ニ基キ交戰國ハ敵國ノ抵抗力ヲ壓抑スルニ必要ナル兵器ヲ以テ爭鬪ニ從事スル敵國人ヲ戰爭ニ於テ殺戮シ若クハ俘虜トシ或ハ敵國ノ戰爭ニ關スル運動ヲ指揮若クハ助勢スル敵國人ヲ俘虜ト爲シ得ルト同時ニ兵器ヲ以テ抵抗スルコト能ハサルカ又ハ抵抗ヲ爲サハルモノ換言セハ敵國ノ兵力抵抗ニ直接ニ關係ヲ有セサル敵國人民ヲ殺戮若クハ虐待シ其財產ヲ毀損加害スルコト能ハス

何トナレハ是等ノ行爲タル敵國ヲ威嚇シテ我要求ニ服從セシムルノ一手段ト看做シ得ヘカラサルニ非スト雖モ是レ全ク敵國ノ抵抗力ヲ除去スルニ關シテハ最モ間接ト云ハサルヲ得サルノミナラス確實ナル手段ト看做スヘカラサルヲ以テナリ尙ホ此等戰爭ニ關スル交戰國ノ權利ニ付キ陸上ノ戰鬪ニ於ケルモノヲ詳説センカ爲メ左ノ數節ニ分ツ

第一節 戰鬪者及ヒ非戰鬪者

第一項 戰鬪者

古代ニ於テハ交戰國人民ニ付キ戰鬪者及非戰鬪者ノ區別ナキコトナリシカ戰爭ニ從事スヘキ者ニ制限ヲ設ケルハ戰爭ヨリ結果スヘキ不必要ナル慘毒ヲ減却スルモノニシテ羅馬時代ニ於テモ政治上及宗教上ヨリシテ稍此習慣ノ行ハレ方今ニ於テハ正當ニ戰爭ニ從事シ得ヘキモノハ單ニ戰鬪者ト看做サルルモノニ限り戰鬪者ノミ兵器ヲ採テ公然敵軍ニ抵抗シ得ヘクシテ非戰鬪者タル人民ハ決シテ兵器ヲ携ヘテ戰爭ニ從事スルノ權利ヲ有セス而シテ戰鬪者ハ敵軍ニ抵抗ノ結果トシテ殺傷セラレ又ハ俘虜トセラルルカ如キ責任スルト同時ニ

軍人ノ資格ニ伴フヘキ權利ヲ有シ非戰闘者ハ戰爭中ト雖モ其生命財産ヲ害セ  
 ラレサルノ特權ヲ有スルト同時ニ敵軍ニ抵抗スルトキハ犯罪者トシテ刑セラ  
 ル、カ如キ重大ナル權利關係上兩者ノ間ニ差異アリトス然レハ現今國際公法  
 ニ於テ戰闘者ト看做スヘキモノハ如何ニト云ハ、戰爭ニ從事スル敵國人中ニ  
 付キ特ニ戰爭行為ヲ專務トスルモノ即チ交戰國ノ軍隊ニ屬スルモノハ常備兵  
 ト臨時募集ノ兵士タルト豫備後備國民軍又ハ屯田兵タルトヲ問ハス一タヒ軍  
 籍ニ編入セラレ其職務ニ由リ兵器ヲ採リテ敵軍ニ抵抗スルモノハ論ナク一言  
 以テ之ヲ盡セハ正當ニ戰闘者タルヘキモノハ交戰國ノ法令又ハ命令ニ由リテ  
 戰爭ニ從事スルモノ及ヒ敵軍ノ侵入スルニ際シテ義勇兵トシテ起リタル防戰  
 隊ノ隊員トス  
 此戰闘者及ヒ非戰闘者ノ區別ハ管ニ國家ノ抵抗力並ニ其者ノ行ヒタル戰爭ニ  
 付キ國家ノ責任上至大ナル關係ヲ有スルノミナラス戰爭ニ從事シタルモノ、  
 運命ニ付テモ關係最モ重大ナルヲ以テ此區別ハ最モ明確ナルヲ要ス固ヨリ常  
 備兵士及陸海軍將校ノ如キハ戰闘者タルコト疑ナキモ常ニ問題ノ生スルハ民兵、

義勇兵等國防ノ爲メ蜂起スル人民ノ團體ニシテ果シテ之ヲ戰闘者ト看做スヘ  
 キヤ否ヤニ在リトス「ナボレラン」一世ハ義勇兵ヲハ戰闘者ト認メス市民ノ蜂起  
 防戰ヲ爲スモノニ對シテモ戰闘者ノ待遇ヲ與ヘスシテ獨逸及ヒ西班牙ニ攻メ  
 入りタルトキニ於テモ屢布告ヲ發シテ市民ノ佛國軍隊ヲ攻撃スルモノアルト  
 キハ死刑ニ處スルコトヲ以テシウエリントシ候モ亦佛國ニ追撃スルニ當リテ  
 布告ヲ出シテ佛人ニシテ一揆暴動ヲ起シテ英軍ニ抗スルモノハ俘虜ノ待遇ヲ  
 與ヘス犯罪者トシテ罰スヘキコト、爲シ千八百七十年普佛戰爭中ニ於テモ獨  
 逸國ハ同年八月布告ヲ發シ佛國義勇兵ニシテ佛國政府ノ下附シタル記號ヲ有  
 シ士官ノ指揮ノ下ニ立テル規則正シキ軍隊ニ隸屬シテ其一部ヲ組成シ且ツ制  
 服ヲ着スルモノニ非サレハ戰闘者ト看做サスシテ強盜ナリトシ死刑又ハ十年  
 間ノ徒刑ニ處シ其期限滿了迄ハ獄中ニ繋タコト、爲セリ然ルニ佛國政府ハ其  
 處置ニ抗辯シテ義勇兵モ亦戰闘者ナリトシ佛國義勇兵ハ一定ノ服裝ヲ爲シ且  
 ツ其袖ニ赤筋ノ徽章ヲ附着シタルカ故ニ戰闘者ト看做スヘキ資格ニ於テ缺タ  
 ル所ナキコトヲ主張シ獨逸國ハ之ヲ承認セス佛國ノ農夫モ同一ノ服裝ヲ爲ス

モノ多ク且ツ赤筋ヲ附着スルモ違方ヨリ識別スルニ足ラサルニ因リ戦闘者ト看做スヘカラサルコトヲ抗論セリ

斯ク民兵、義勇兵等ノ戦闘者ト看做スヘキヤ否ヤノ點ニ關シテハ千八百七十四年歐洲列國ノ開設セル「ブルジョア」會議ニ於テモ議論アリタル所ニシテ遂ニ其宣言中第九條ニ於テ戦闘者ト看做スヘキモノヲ規定シテ曰ク戦争ノ法則權利及ヒ義務ハ軍隊ノ外左ノ條件ヲ具備スル民兵、義勇兵ノ團體ニモ適用スヘシ

第一 團體ハ首長ヲ有シテ其配下ニ付キ責任ヲ有スヘキモノアルコト

第二 違方ヨリ識別シ得ヘキ確定シタル徽號ヲ着スルコト

第三 公然兵器ヲ携帯スルコト

第四 戦争ノ法則及ヒ慣習ニ從ヒ行動スルコト

又陸軍ノ全部又ハ一部ヲ民兵ヲ以テ組織スル國家ニ於テハ其民兵ハ所謂陸軍ノ名義中ニ包含ス

此宣言ニ由リ民兵及義勇兵等ノ戦闘者ト見ルヘキヤ否ヤハ區別スルヲ得ルニ至レリ其外敵國軍隊ノ自國ニ進入スルニ當リテ一都市、一村、一村落ノ人民ニシテ袖

手傍觀シテ其土地及ヒ財産ヲ敵人ノ手ニ入ル、ニ忍ビスシテ兵器ヲ採リテ蜂起シ敵軍ニ抵抗スルコト無キニ非ス是レ全ク自國運命ノ決セントスルニ當リ愛國心ヨリシテ自ラ國家ノ犧牲ト爲リ敵軍ニ抵抗スルモノナルニ由リ之ヲ目シテ戦闘者ニ非ストシテ強盜ト看做シ普通ノ犯罪者トシテ之ヲ刑罰ニ處スルハ其情憐ムヘキモノアリテ事理ニ合セタルニ由リ同「ブルジョア」宣言第十條ニ於テ敵軍ヨリ占領セラレタル土地ノ人民ニシテ敵軍ヲ進襲ノ急ナルニ際シ第九條ノ規定ニ從ヒ軍隊ヲ組織スルノ時間ヲ有セス兵器ヲ採リテ敵軍ニ抵抗スルモノニシテ戦争ノ法則及ヒ慣習ヲ遵守スルモノハ戦闘者ト看做スヘキコトヲ規定セリ更ニ千八百八十年九月「ワックスフホード」陸戰法規ニ於テモ第一章ニ戦闘者トハ國家ノ兵力ヲ組成スルモノニシテ國家ノ兵力トハ第一所謂陸軍ト稱スルモノ但シ民兵ヲモ包含ス第二國防兵、國民軍及ヒ「ブルジョア」宣言第九條ニ列載セル條件ヲ具備スル一切ノ團體第三軍艦ノ水兵其他海軍ニ屬スル人員第四「ブルジョア」宣言第十條ニ規定スル場合ニシテ急遽ニ且ツ公然ニ戦闘ニ從事スルモノニシテ時日ノ缺乏ノ爲メ軍隊ノ組織ヲ備フル能ハサルモノト雖

モ戰鬪者ト看做スコトヲ規定セリ。其規定ハ戰鬪者ト看做スルモ前  
 前述セル所ニ依リ戰爭ニ於テ戰鬪者ト看做スヘキ者ヲ明カニ知得スルモトヲ  
 得ヘシ要スルニ何レノ場合ニ於テモ戰鬪者ハ公然武器ヲ採リテ抵抗スルモノ  
 ナラサルヘカラス隨テ縱令戰鬪者タル資格ヲ有スヘキモノト雖モ其形狀ヲ  
 變シ例ヘハ農民ノ狀態ニ假裝シテ敵軍ヲ襲撃スルカ如キハ戰鬪者タル待遇ヲ  
 受クルコト能ハス又服裝ニ關シテハ制服ヲ普通着用スルモ時トシテハ必スシ  
 モ之ヲ要セスシテ一定ノ徽號ヲ帽子又ハ衣服ニ附着シ他ノ人民ト容易ニ區別  
 シ得ヘク且ツ遠方ヨリ識別シ得ヘキモノアレハ足レリトス尤モブルセル會議  
 ニ於テ獨逸國代表者ハ戰鬪者タル徽號ハ易ク取去リ得ヘカラザルコトノ必要  
 ヲ説キ「ラック」スフホード陸戰法規ニ於テモ之ヲ採用シタル所ニシテ其徽號ノ  
 固着スルヲ要シ狼リニ之ヲ附着シ又ハ取去リ得ヘキモノタルヘカラス而シテ  
 又凡テ戰鬪者ノ團體ニハ之ヲ指揮管轄シ其麾下ノ者ノ行為ニ對シテ責任ヲ有  
 スルモノアルヲ必要トス然ラズシテ其團體ハ烏合ノ衆ニシテ管ニ敵軍ニ對  
 シテ無益ナル戰爭ノ障礙ヲ與フルノミナラス斯ル黨類ハ自國臣民ニ對シテ加

害ノ行為ヲ爲スコト普通ナルヲ以テ之ヲ戰鬪者ト看做スコト能ハス然レトモ  
 敵軍ノ襲來ニ迫ル場合ニ限リテハ縱令服裝又ハ首長ノ一定シタルモノアルト  
 否トニ拘ハラス人民ノ蜂起シテ防戦スルモノハ戰鬪者ト看做サルヘク尤モ此  
 點ニ付キ特ニ注意スヘキハ敵軍ヨリ占領セラレタル土地ニ於ケル人民タルコ  
 トヲ要シ一旦其占領ニ係リタル以上ハ其地ノ人民ニシテ之ニ抵抗スルハ軍律  
 ヲ以テ罰セラルヘキ犯罪者ト爲リ決シテ戰鬪者タル待遇ヲ受タルコト能ハス  
 而シテ何レノ場合ニ於テモ公然兵器ヲ携帯スルノ外更ニ戰爭ノ法則及ヒ慣習  
 ヲ遵守スルコトヲ要シ之ヲ守ラサルモノハ戰鬪者ト看做サス又其行為ニ付テ  
 ハ時トシテハ國家モ亦其責ニ任スヘキモノトス。戰鬪者ト看做スルハ戰鬪者ト  
 終ニ一言ヲ要スルハ戰爭ニ於テ交戦國ハ野蠻人ヲ戰鬪者ニ使用シ得ヘキヤ否  
 ヤノ問題ニシテ千七百七十六年北米合衆國獨立戰爭並ニ千八百十二年英米戰  
 爭ニ於テハ英國ハ亞米利加印度人ヲ驅リテ戰爭ニ從事セシメ米陸ニ於ケル英  
 佛戰爭ニ於テハ印度人ヲシテ英軍ヲ攻撃セシメ千八百四十八年露埃戰爭ニ於  
 テハ露國ハ「サーカシアン」人種ヲ戰爭ニ使用シ現今ニ於テモ歐洲諸國ハ其殖民

地ニ於ケル戰爭ニ於テ野蠻人ヲシテ戰國ニ從事セシムルハ其例夥シク國際公法ニ於テモ未タ戰爭ニ於テ野蠻人ヲ使用シ戰國ニ從事セシメ能ハストル法則ノ存在シタルコトナシ然レトモ野蠻國ニ對スル戰爭ニ關シテハ國際公法上其野蠻國家ト認メサルニ由リ其戰爭モ自ラ茲ニ論スヘキ戰爭ニ非サルヲ以テ之ニ野蠻人ヲ使用スルト否トハ斯法上何タル研究ヲ爲スノ必要ナシト雖モ斯法上國家間ノ戰爭ニ於テ野蠻人ヲ驅リテ戰爭ニ從事セシムルハ前述セル戰國者タルニ必要ナル條件ヲ悉ク具備セシメ特ニ戰爭ノ法則及ヒ慣習ヲ遵守セシムルコト能ハサル限リハ方今決シテ許スヘカラサルカ如シ又茲ニ併セテ注意ヲ要スルハ戰國者ハ必スシモ內國人ニ限ラスシテ交戰國ノ國法ニ依リ第三國ノ人民ト雖モ其軍隊ニ入り或ハ編入シテ戰爭ニ從事スルモ妨ナク此場合ニ於テハ其戰國者ハ對手國ニ向テ第三國人民タルノ殊權ヲ有スルコト能ハサルト同時ニ其人民ノ任意ニ出テ戰國者トシテ戰爭ニ加リタルハ其本國ノ命令ニ出テタルモノニ非サルヲ以テ其國家ハ之ヲ以テ局外中立ノ義務ヲ破リタルモノトスヘカラサルハ論ヲ待タス

第二項 非戰國者

前項ニ於テ戰國者ト看做スヘキモノヲ明カニシタルニ由リ其裏面ヲ見ルトキハ非戰國者タルヘキモノハ自ラ分明ニシテ交戰國ノ君主並ニ皇族文官學者等ヨリシテ婦女幼者農工商其他普通平和ノ職業又ハ生活ニ從事シ居ルモノハ悉ク非戰國者ニシテ苟モ身ヲ軍事ニ委スル者ニ非アレハ兵器ヲ採リテ敵軍ニ反抗シ又ハ戰時ノ法則ヲ違犯セザル間ハ戰爭中ト雖モ敵軍ノ其生命財產ニ對シテ故ラニ敵意ノ行爲ヲ加フル能ハサル特權ヲ有シ敵人ヨリ直接ニ危害ヲ被ルコトナシ之ト同時ニ非戰國者ニシテ戰爭ニ從事スルハ國際公法上ノ違反ニシテ犯罪者トシテ不名譽ノ嚴罰ヲ受クヘキノミナラス交戰國モ非戰國者ヲ戰爭ニ使用スルコト能ハス而シテ是等非戰國者ハ軍隊ニ從ヒテ戰地ニ在ルトキト雖モ非戰國者タル特權ヲ失フコトナク軍隊中ニ在ル軍吏醫師通信者電信郵便ヲ取扱フ者又ハ敵國ノ外交官或ハ商船ノ海員ノ如クハ悉ク戰爭ノ暴力ヲ受クヘキモノニ非ス雖レトモ斯ク非戰國者ノ軍隊ニ使用セラレ又ハ之ニ隨行スルニ付テハ戰爭ノ結果スル間接ノ危害ヲ被ルコトアルハ勿論又時トシテ敵

軍ノ爲メ其事情ニ依リテ俘虜トセラレコトヲ免レヌシテ「ブルセル」宣言第十條ニ於テモ交戦國ノ軍隊ハ戦闘者及ヒ非戦闘者ヨリ成立シ敵國ニ依リテ俘虜トセラレトキハ其ニ戦争ノ俘虜タル同一ノ待遇ヲ受クヘキモノト規定セリ

又非戦闘者ノ身體財産ニ關スル特權ハ固ヨリ戦時ノ法則ニ違犯セサル範圍内ニ於テ有スルモノナルカ故ニ戦地又ハ敵軍ノ占領ニ係ル土地ニ於テ戦時ノ法則價例上交戦國軍隊ノ正當ニ行ヒ得ヘキ權利行爲ニハ抗辯ノ理由トナラスシテ此等法則及ヒ慣習ハ章ヲ追フテ詳説スヘシ加之縱令従軍セサル非戦闘者ト雖モ敵國ノ陸軍又ハ海軍ノ自國軍隊ニ對スル攻撃ヨリシテ間接ニ其生命財産ニ損害ヲ被ルハ決シテ咎ムヘカラサル所ニシテ例ヘハ敵兵ト守戦スル城壘ヲ砲撃スルニ當リ其城壘中又ハ近傍ノ婦女兒童重其他非戦闘者ニ損害ヲ及ホスカ如キ又戦場ニ當リタル村落ヲ陥ルニ當リテ慘憺タル出來事ノ起ルハ戦時ノ法則ニ違反セザルニ出テタルニ由リ猶ホ敵兵ヲ搭載スル運送船又ハ瀛車ヲ砲撃ノ爲メ其列車又ハ船舶中ノ非戦闘者ヲ殺傷スルノ場合ト均シク決シテ其行

爲ヲ批難スルコト能ハスシテ其攻撃ノ果シテ戦争ノ目的ヲ達スルニ必要ナルヤ否ヤモ問フヘキ所ニ非ス又近來ニ於テハ村落砲撃ノ初ニ當リ兒女ヲシテ其包圍地ヲ立退カシムルノ慣例モ生シタルコトナレトモ是レ未ダ交戦軍隊ヲ拘束スヘキ法則トスルコト能ハス千八百七十年普佛戦争ニ於テ獨逸軍隊ノ兩度マラ「ストラスブル」ヒヲ襲撃シタルニ際シテハ兒女ヲシテ軍營中ヲ通行シテ安全ノ場所ニ立退クコトヲ許シタルニ數ヶ月後巴里府ヲ圍ミタルニ當リテハ戦争ニ依リテヨリモ寧ロ飢饉ニ依リテ之ヲ陥レントシタルニ由リ獨逸軍ハ非戦闘者ト雖モ立退ヲ拒絕セリ加之往々戦争ニ於テハ兵士ノ據守スル城壘ヲノミ砲撃セシテ其近傍ノ民家ヲ故ラニ砲撃シテ以テ敵兵ノ降服ヲ早メントスルコト行ハルハ所ニシテ此行爲タル慣例上咎ムヘカラサルカ如シト雖モ是レ全ク非戦闘者ニ對スル法則ノ違反ニシテ軍事上緊要ニシテ欲クヘカラサル事由アルニ非サレバ理論上ニ於テハ決シテ許スヘカラサル行爲トスル國憲ハ戰時ノ法律ニ依リテ第二節 俘虜ノ性質

第一項 俘虜ノ性質



ハ隨意ニ戰爭ニ重大ノ關係アル軍艦ノ使用ニ供セラレ得ヘク且獨逸國ノ如キ  
 國ニ於テハ總テ航海ヲ業トスル人民ハ海軍ノ徵集ニ應スヘキコトハセルニ依  
 リ之ヲ俘虜トスルノ理由ハ一層強固ナルコトヲ以テセリ此佛國ノ回答ハ正當  
 ニシテ水夫ヲ俘虜ト爲シ得ヘキニ付テハ國際公法上疑ナキ慣例タリ  
 茲ニ問題ノ存スルハ千八百六十四年、ゼネバ赤十字條約第二條ニ於テ戰地假病  
 院及陸軍病院ニ於テ使用スル人員即チ監督員事務員負傷者運搬員並ニ說法者  
 ハ各其本務ニ從事シ且テ負傷者ノ入院スヘク若クハ救助スヘキモノアルトキ  
 ハ中立ノ利益ヲ享有スト規定セリ隨テ我國ヲ始メ此條約ニ同盟又ハ加盟セル  
 文明諸國ハ該規定ニ從ヒ戰地病院又ハ陸軍病院ニ於テ使用スル人員ニシテ負  
 傷者ノ看護スヘク救助スヘキモノアリテ之ニ從事スル間ハ之ヲ俘虜ト爲シ能  
 ハサルハ論ナシト雖モ斯ク戰地假病院又ハ陸軍病院ニ從事セスシテ軍隊ニ從  
 ヒ居ル說法者及醫師ニ付テハ之ヲ俘虜ト爲シ得ヘキヤ否ヤノ問題トス凡テ說  
 法者及醫師ナルモノハ其職業上敵人ト否トノ別ナク人類一般ノ生命ヲ維持救  
 護スルヲ謀ルモノナルヲ以テ之ヲ俘虜ト爲シ得ヘキヤ否ヤニ付テハ自ラ議論

ナキ能ハス第十八世紀ニ於テハ之ヲ俘虜トシ得ヘキモ俘虜交換ニ於テ無報酬  
 ニテ本國ニ送還スルノ慣習行ハレ學者中「マルタン」ハ當時之ヲ捕ヘタルトキ  
 ハ敵軍ニ送還スルノ慣例生シタルコトヲ説キ「クリューバ」ハ俘虜トスヘカラ  
 サル特權アルコトヲ主張シタルモ其後「フター」著書ニ於テハ說法者及醫師  
 フ俘虜ト爲シ得ヘキコトヲ記載セルコトナレハ之ヲ俘虜トセサルノ慣例又ハ  
 特權ノ存シタルコトハ其實最モ疑ハシク且又千八百六十三年米國陸軍訓令  
 第五十三條ニ於テモ陸軍司令官ハ事情ニ依リ說法者及醫師ヲモ俘虜ト爲シ得  
 ヘキコトヲ規定セルヲ以テ見ルモ現今國際公法ニ於テハ普通之ヲ俘虜トセザ  
 ルノ傾向アリト雖モ自國軍隊ノ事情ニ依リテハ決シテ俘虜ト爲シ能ハサルモ  
 ノニ非サルカ如シ又新聞通信者ニ關シテモ敵軍ニ於テ一般社會ノ爲メ保護セ  
 ラルヘキモノナレトモ「ブルンチヨリ」ヲ始メ多クノ學者ハ之ヲ俘虜ト爲シ得  
 ヘキコトヲ唱ヘ米國陸軍訓令並ニ「ブルツセル」宣言ノ議案中ニ於テモ戰爭ノ俘  
 虜トスルコトヲ得ト規定シアルコトナレハ軍事上ノ必要アル間ハ俘虜トシテ  
 拘留シ得ヘキモノト如シ

第二項 俘虜ノ待遇

俘虜ノ待遇ニ關シテ方今國際公法上ノ法則ノ基礎トスル所ハ戰爭中敵國ヲシテ其俘虜ト爲リタル者ヲ使用スルコト能ハサルヲ以テ本國ノ兵力ヲ增加スルコト無カラシムルト同時ニ俘虜ヲ用ヒテ自國ノ兵力ヲ助勢セシムルコト能ハサルニ在リ此法則タル第十七世紀ノ末ニ於テモ稍々認ムル所トナリ又昔時ノ如ク俘虜ヲ殺戮又ハ獄中ニ苦ムルカ如キ慣習ハ廢却テ人情ヲ以テ之ヲ待遇シ不必要ナル虐待ヲ加ヘサルニ至リ單ニ其逃亡ノ虞ナキ程度ニ於テ抑留ヲ安全ニスルノ規律ニ從ハシムルコトヲナレリ何トナレハ前述セル如ク俘虜ハ決シテ刑事上ノ犯罪者ニ非ス又敵國ニ對スル復讐ノ目的トナレハキ性質ノモノニ非シテ國家ノ權力ノ下ニ在ル敵國人ナルニ由リ其安全ニ抑留以外ノ不必要ナル虐待又ハ原因ナキ強制ヲ受クヘキモノニ非サルヲ以テ假令一時其犯則ノ爲メ強制又ハ酷待ヲ懲罰トシテ被ルコトアルモ之ヲ爲メ俘虜ノ性質ニ伴フ可キ權利ヲ失フモノニ非ス隨テ故ナクシテ之ヲ殺傷スルハ決シテ許ササル所トス何トモハ既ニ降服又ハ捕收セタル敵人ヲ殺傷スルハ戰爭ニ必要

要ナル行爲ナルヲ以テ交戰國ノ行フ能ハサルニ依ルヲ以テナリ又之ト同一理由ニ因リ俘虜ハ管ニ其身體ニ對シテ虐待ヲ受ケサルノミナラス其攜帶ニ係ル財產モ兵器ノ外ハ其所有ヲ保護セラルヘクシテ沒收セラル、コトナク又其名譽ヲモ保護セラルヘキモノニシテ其地位、資格ニ相當ナル待遇ヲ受ケサルモノトス此理由ニ因リ俘虜ハ在留國ニ於テ其逃亡ヲ防キ其監督ヲ容易ナラシムル爲メ城堡、軍營都市又ハ其他一定ノ場所ニ閉込メラル、カ如キ其取締上ヨリシテ其自由ヲ制限セラル、コトアルハ論ナシト雖モ逃亡セント企ツルカ如キ行爲アリタル後又ハ逃亡ノ虞アルカ或ハ犯行アリタル後ニ非サレハ獄中ニ投セラレ又ハ禁錮セラル、コトナク其滞留地ノ如キモ成ル可ク清潔ニシテ健康ヲ害セサル場所ナルヘク又囚獄其他犯罪人ノ住居ニ定メタル場所ヨリ離隔セシメサルヘカラス而シテ都市ヨリ遙カニ隔リタル邊地ニ送り付クルヲ不可トシ千八百十二年及ヒ十三年ニ於テ露國ハ佛國俘虜ヲ西比利亞ニ送りタル如キハ其當ヲ得ナルモノトスル說アレトモ俘虜拘置ノ場所ノ如何ハ寧ロ事實論ニ屬シ要スルニ俘虜ノ生命及ヒ名譽ヲ害セサルニ相當ナル場所ヲ事宜ニ應ジテ

定ムレハ足ルモノニシテ其取給上ニ付キ自國ニ必要アル場合ニ於テハ其情狀ニ由リ如何ナル取給ヲモ之ニ行ロ得ヘキハ疑ナシ

俘虜ノ衣食其他生活ノ費用ニ關シテハ自國ニ於テ給與スルコトアリ俘虜ノ本國ニ於テ支給スルコトアリテ是等ハ交戰國間ノ約定ニ由リテモ決セラレヘキコトナレトモ第十八世紀ノ中頃ニ至ル迄ハ俘虜ノ本國ヨリシテ敵國ニ對シ其生活ノ費用ヲ拂戻スラ一般ノ慣例トシテ行ハレ本國ヨリ俘虜ノ衣食ニ關スル取極ヲ爲サ、ルハ國家ノ耻辱ト看做サレ千八百十四年英佛戰爭ニ於テ英國ハ其臣民ノ佛國ニ俘虜ト爲リタルモノニ對シテ給與ヲ爲セタルニ拘ハラヌ佛國ハ英國ノ手ニ在ル自國俘虜ニ衣食ヲ供給セサリシハ非難セラレタル所ニシテ當時ニ於テハ交戰國ハ互ニ戰爭中又ハ戰爭後ニ於テ其費用ヲ計算シ或ハ條約ヲ以テシ又ハ戰爭中ニ於ケル協議ヲ以テ之ヲ定メタルモノ少ナカラス然レトモ方今ニ於テハ此慣習モ一變シ交戰國ハ各敵國人ノ俘虜ヲ自國ノ費用ニテ衣食セシムルヲ常トシ其費用ハ戰爭終局ニ於テ戰敗國ヨリ支拂フヘキ償金ニ由リテ辨償セラルヘキモノト爲レリ尤モ戰爭ノ償金ニハ俘虜ニ給與シタル費

用ヲ一々計算シテ之ニ入ル、ニ非スヲ全體ノ償金中ニ其費用モ包含セラルヘク戰爭ノ償金ノ取極ニテ交戰國雙方ニ於ケル俘虜ノ生活ニ關スル費用ハ互ニ辨償トナルモノト看做サル、ニ過キス故ニ日清戰爭ニ於テハ我國ハ清國俘虜ヲ内地ニ輸送シテ東京ニテハ本願寺ニ置キ地方ニ在リテハ師團ノ兵營ニ拘置シ我國ノ費用ニテ其衣食ヲ給シ我國兵士ト同様ナル飲食衣服ヲ與ヘタリ加之時トシテハ俘虜ニ衣食住ノ費用ヲ自國ニ於テ給スル外ニ金錢上ノ手當ヲ爲スコトアリテ千八百七十年普佛戰爭ニ於テハ佛國ハ獨逸士官ニ對シテ一ヶ月毎ニ其階級ニ從ヒ四磅乃至十三磅半ヲ給與シ兵士ニハ一日七ペンヌ半ヲ支給シ獨逸國モ佛國俘虜タル將校及ヒ兵士ニハ衣食ノ外ニ金錢上ノ手當ヲ與ヘタリ然レトモ獨逸國ニ於テハ軍人以外ノ俘虜ニハ何タル金錢上ノ供給ヲ與ヘサリシ是レ均シク俘虜中ニ付テモ軍人ハ普通人民ヨリ一層優待ヲ受クヘキハ一般ニ認メラレタル所ナルヲ以テナリ而シテ俘虜ノ衣食住ニ付テハ慣習ニ從ヒ其階級ニ由リテ差異アルヘキモ要スルニ其支給ノ程度トスル所トシテ今日一般ニ是認セラレタルモノハ自國軍人ト同一ノモノヲ供スルニ在リテ日清戰

争ニ於テモ前述ノ如ク清國俘虜ニ向テ日本兵士ト同一ナル衣食ヲ給與セリ尤モ自國ニ於テ敵國俘虜ヲ如何ニ優待スルモ妨ナキコトナレトモ其生命自由名譽ノ三者ニ必要以外ノ優待ヲ爲スハ決シテ國家ノ義務トスルコト能ハス然レトモ俘虜自己ノ費用ヲ以テ必要以外ノ衣食其他贅澤品ヲ得ルハ自由ニシテ國家ハ之ヲ禁止スルノ權ナク單ニ之カ爲メ俘虜一般ノ取締上ニ不便ヲ生シ又ハ秩序ヲ害スルノ恐アルトキニ限リ之ヲ禁制スルヲ得ヘキニ過キス

敵國俘虜ヲ自國ニ拘留中ニ於テ之ニ職業ヲ與ヘ得ヘキヤ否ヤニ付テハ學者中議論ノ存スル所ニシテ「カルボ」ハ俘虜ヲシテ或職業ニ從事スルコトヲ強制スルハ其自由意思ニ干渉スルモノニシテ從來ノ戰時法則ニ適ハス且ツ自國軍隊ニ付テモ職業ヲ與フルハ普通行ハル、モノニ非サルヲ以テ許スヘキモノニ非ストセリ然レトモ多數ノ學者ハ之ニ反對ノ意見ヲ有シ俘虜ヲ多年月間爲スコトナクシテ拘留シ衣食セシムルハ社會一般ノ不利益ニシテ又戰敗國ハ之カ爲メ少ナカラサル費用ノ損失ヲ被ルヘキヲ以テ俘虜ニ勞力ヲ與ヘ以テ其生活ノ費用ヲ補助セシメ能ハサルノ理ナク又俘虜ニ於テモ爲スコトナクシテ拘留セ

ラル、ヨリモ寧ロ相當ノ業務ヲ得テ其賃金ヲ得ルハ却テ無聊ヲ感スルコトヲ得ヘキモノナレハ管ニ之ニ職業ヲ與ヘ得ヘキノミナラス自國軍隊ノ設定シタル取締上ノ規則ニ違反セサル限りハ俘虜自ラ進ンテ賃金ヲ得ヘキ職業ヲ引受け得ヘキコト、ナシ其俘虜ノ勞力ニ由リ取得シタル賃金中ヨリ生活ノ費用ヲ控除シタル殘餘金ハ俘虜自身ノ所有ニ歸スヘキモノトセリ然レトモ俘虜ニ強制的又ハ任意上ノ勞力ヲ與ヘ得ヘキハ斯ク殆ント一般ニ認メラレタル所ナレトモ其職業ヲ課スヘキハ無制限ナルモノニ非スシテ苟モ其健康ヲ害シ氣力ヲ弱ムルモノナルヘカラサルハ論ナク俘虜ノ地位資格上ノ名譽ヲ毀損スルカ如キモノタルヘカラス要スルニ國家ノ敵國俘虜ヲ使用シ得ヘキ權利ハ之カ爲メ俘虜ノ特權ヲ害スルコトヲ許サスシテ其職業ヲ與フルニ付テモ俘虜自身ノ利益ト爲ルヘキ職業ノ存セサル場合ニ限リ之ニ強制的無報酬ノ勞力ヲ課スヘキモノトス又現今國際公法ニ於テハ敵國俘虜ヲ自國軍役ニ從事スルコトハ決シテ爲スヘカラサルニ由リ之ト同一理由ニ基キ俘虜ヲシテ本國ノ戰爭作用ヲ妨害スルノ業ヲ命シ其勞務ニ使用スルハ人情ノ忍ヒサル所ニシテ戰時國際公法

ノ許ス所ニ非ス隨テ俘虜ヲシテ直接ニ戰爭ニ關係ヲ有スル事業ニ使用スル能ハサルハ勿論ナレトモ「ブルンチエリ」ハ戰爭ノ用ニ供スヘキ業務ト雖モ現在ノ戰爭ニ關係ナキモノ例ヘハ戰地ヨリ遠隔シテ其戰爭ニ關係ナキ岩壘ヲ築設セシメ又ハ防禦ニ要スル業務ヲ執ラシムルハ敢テ妨ナキコトヲ唱道セルモ凡テ俘虜ヲ戰爭ノ用ニ關係スルコトニ使用スヘカラサルハ一般ノ認ムル所ナルヲ以テ同氏ノ説ハ目下ノ所一家ノ私説ト爲スノ外ナキカ如ク

日清戰爭ニ於テ清國ハ我國俘虜ニ對シテ野蠻的ノ虐待ヲ加ヘタルニ拘ハラヌ我國ニ於テ清國俘虜ヲ待遇シタルハ全然國際公法ノ法則ニ基キタルヲ以テ其概略ヲ述フレハ俘虜ハ我國家ノ俘虜タルノ故ヲ以テ各軍ニ命ジテ其捕收ニ係ルモノハ成ル可ク速カニ我國ニ輸送セシメ總テ大本營ノ管轄ノ下ニ置キ又其俘虜ハ犯罪人ニ非ス復讐ノ目的ト爲スヘカラサルノ理由ニ依リ支那内地ニ於テ逃亡ノ恐アリタル場合ノ外ハ之ヲ繫縛セス日本内地ヲ通行スルニハ常ニ自由歩行ヲ許シ又内地ニ拘置スルニハ前述ノ如ク寺院又ハ兵營中ニ於テ犯罪人集治所ノ近傍ニ置カス面シテ自由ニ外出セシムルハ民衆ノ侮辱スルノ虞アリ

ルヲ以テ拘置所以外ニ散歩セシメタル事ト爲シ其携帶品ニ兵器ハ沒收セルモ其以外ノモノハ之ヲ鄭重ニ保管シ之ニ兵士同等ノ衣食ヲ供給シテ將校ハ別室ニ置キテ兵士ト待遇ヲ異ニセリ又我國ニ於テハ俘虜ニ勞務ヲ與ヘス俘虜中負傷又ハ疾病アルモノハ陸軍豫備病院又ハ赤十字社ノ病院ニ於テ治療セシメ死亡者ハ相當ノ禮儀ヲ以テ陸軍埋葬地ニ埋葬セリ茲ニ大本營ノ訓令ニ基ツキ第一師團ノ管轄ニ委任セラレタル清國俘虜ノ待遇ニ付キ發シタル規則ヲ一見セハ我國ニ於ケル清國俘虜ノ待遇如何ヲ觀察スルヲ得ヘシ即チ其規則ヲ舉クレ

- 一 俘虜ノ被服ハ在庫古品ノ絨又ハ小倉織ノ内ヲ以テ適宜支給スヘシ
- 二 頭髮ハ本國風辦髮ニナシヲクヘシ
- 三 煖爐又ハ火鉢等居室ノ結構ニ應ジ適宜支給シテ可ナリ但火災ノ豫防等一層ノ注意ヲ要スルハ論ヲ待タス
- 四 前項ノ煖爐又ハ火鉢等給與ノ程度ハ一般軍隊ノ例ニ依ル儀ト心得ヘ

- 五 食物ノ調理炊爨室内ノ掃除浴室同共總テノ水汲ミ衣服ノ洗濯修理等ハ俘虜ノ内ニテ爲シ得ラル、限リ致サセテ差支ナシ
- 六 死亡者アリシ時屍體ハ其身分ニ關セテ總テ陸軍埋葬地ノ一隅ニ區別ヲ立テ埋葬スヘシ
- 七 前項墓標ノ制式ハ陸軍將校下士卒ノ規定ヲ準用シ又書式ハ表面ニ清國官姓名之墓側面ニハ俘虜トナリシ時ノ地名及年月並ニ死亡年月日ヲ記入スヘシ
- 八 俘虜本國ヨリ着用シ來リタル被服等ノ内到底保存ノ見込ナキモノハ本人ノ希望ニ從ヒ管理者ニ於テ處分シテ妨ナシ
- 九 前項ノ外ノ所持品ハ之ヲ保管シ俘虜ノ退去ノ際之ヲ護送者へ渡スヘシ
- 十 俘虜中病傷者アルトキハ將校下士卒ノ例ニ準シ入院セシメ治療ヲ受ケル
- 十一 俘虜中死亡者アルトキノ埋葬費用ハ陸軍隊付準士官下士官兵卒埋

(ロ) 明律

凡偽造寶鈔(紙幣ノ偽造)不分首從及窩主若知情行使者皆斬

○若將寶鈔挑剝補換描改以真作偽者紙幣ノ性質上ノ變更杖一百流三千里

凡私鑄銅錢者(貨幣ノ偽造)絞匠人罪同 ○若將時用銅錢通用ノ貨幣剪錯薄小取銅以求利者貨幣ノ物體上ノ變更杖一百 ○若偽造金銀者貨幣ノ性質上ノ變更ニ類ス杖一百徒三年

(ニ) 清律

凡私鑄銅錢者(貨幣ノ偽造)絞匠人罪同 ○若將時用銅錢(通用ノ性質上ノ變更ニ類ス)杖一百徒三年

(三) 輸入

輸入トハ結局或物件ヲ我國土内ニ置クノ目的ヲ以テ外國ヨリ其物件ヲ我國土内ニ運ヒ入ルコトヲ云フイ結局其物件ヲ我國土内ニ置クノ目的アルヲ要スルカ故ニ他國ニ輸送スルノ目的ヲ以テ一時我國ニ陸上カスルカ如キハ之ヲ輸入ト云フヲ得ス(外國ヨリ運ヒ入ルコトヲ要スルカ故ニ我國土内ノ甲地ヨリ乙地ニ運ヒ入ルカ如キハ亦輸入ニ非ス)我國土内ニ運ヒ入ルコトヲ要スルソ外國ヨリ内國ニ輸送セラル可キ物

件ハ普通税關ヲ經由ス可キモノニシテ外國ヨリ輸送セラレ、物件ニ對スル所謂一國々境ハ税關設置線ナリトス故ニ假令已ニ我領海内ニ運ビ入ル、モ未タ税關設置線内ニ運ヒ入レサル間ハ未タ以テ輸入已遂ノ所爲アリト云フヲ得ス然レトモ其茲ニ注意ス可キハ之ヲ以テ夫ノ刑事上ノ所謂一國主權ノ版圖ニ關スル問題ト混同セサルコトヲ要スルコト是ナリ刑事上一國ノ主權ハ其領海ニモ及フモノナルカ故ニ假令右ノ如キ場合ニ於テモ輸入未遂ノ所爲トシテ之ヲ逮捕スルコトヲ妨ケサルモノトス

(丙) 取受 從來我輩ハ多クノ學者ト共ニ茲ニ取受トハ其字句ニ於テ夫ノ俗語ノ所謂受取リナル文字ヲ轉置シタルニ過キサルト第百九十三條所謂取受ノ文字アル法文ノ原文トモ「*est receu de bonne foi*」可キ草案第二百二十六條「*C'est qui s'agit reu de bonne foi*」アリテ佛語ノ *Recevoir* (即チ受取ナル文字ノ使用シアリタルトニ因リ佛語ノ譯語ニシテ其之ヲ取受トセシハ單ニ音讀ノ便ニ依リシモノナリト思料シタル)ノ結果受取リトハ授ケタル物ヲ受ケテ取ルノ義ナルカ故ニ授ケテ之ヲ受ケシムル者ナキ場合例ヘハ強竊盜拾得遺失物等

ノ場合ニハ取受ノ所爲ト云フヲ得サルモノト思惟セシカ(一)此取受ナル文字ハ我刑法中僅ニ茲ニノミ使用シアリテ他ニ佛語 *Recevoir* ナル文字ヲ取受ト譯シタルノ例ナキト(二)新律綱領受贓律ノ以財請求ノ條ニ凡諸人事アリ財ヲ以テ官吏ニ請求シ法ヲ枉クルコトヲ得ント欲スル者ハ與フル所ノ財ヲ計ヘ坐贓ニ依テ論ス若シ難ヲ避ケ易ニ就キ枉クル所ノ罪重キ者ハ重キニ從テ論ス若シ官吏刀蹬留難(イロイロ難題ヲシカケテ)テ歸結落着ノコトヲ與ヘス及ヒ強無理ナコトヲシテ用ヒテ別ニ事ヲ生シ逼抑(財ヲ渡セト逼ルコト)シテ財ヲ取受スル者ハ錢ヲ出ス人ハ坐セス若以下ハ假令錢ヲ出スモ強請ニ遇ヒテ已ムヲ得スシテ出シタル者ハ無罪ナリトノ但書ナリ又其家人求索ノ條ニ凡監臨官吏ノ家人奴僕所部内ニ於テ財物ヲ取受シ及ヒ求索スル者云々(官吏ノ家人又ハ奴婢等カ主人ノ威ヲ藉リテ專横ナルコトヲ爲スヲ罰スル)ノ條(而シテ其母法タル清律明律ニモアリ)同一ノ條ノ註解ヲ見ルニ取是因事而取也。受是因贈而受也トアリテ取受トハ受取ノ義ニ非スヲ取リ又ハ受タル義ナルニ依テ觀レハ新律綱領ニ於テハ取リ又ハ受

タルノ義ナルコト明ナルト(三)現行刑法ハ其始ヲ蓋氏ノ草案ニ成リタルモ  
 ノナルモ其之カ修正ハ多ク新律綱領等支那法系ニ屬スル刑法ヲ研究シタ  
 ル人ノ手ニ成リタルモノナレトニ依テ之ヲ觀レハ茲ニ所謂取受ナル文字  
 ハ佛語ノ譯語ニ非ス草案修正ノ際委員ニ於テ新律綱領ノ文字ヲ使用シタ  
 ルモノニシテ取受トハ取リ又ハ受タルノ義ナルカ故ニ單ニ受取リタル場  
 合ノミナラス強盜拾得遺失物等進シテ取ル場合ヲモ亦之ヲ包含スルノ  
 語ナルコト疑ヲ容レス

(丁)行使 行使トハ草案所謂 *his on circulation* 流通ニ置クノ義ナリ單ニ流通  
 ニ置クト云フトキハ荷モ偽造貨幣ヲ他人ニ交付スルニ於テハ假令其者ニ  
 於テ其偽造品タルコトヲ知ル場合ニ於テモ尙ホ之ヲ行使ナリト云フヲ得  
 ベキカ如キモ貨幣偽造罪ハ信用ヲ害スル罪ナリ後ニモ述スル如ク假令  
 貨幣ヲ偽造スルモ行使ノ意思アルニ非サレハ偽造罪即チ害信用罪ヲ構  
 成セサルトニ依テ之ヲ觀レハ流通ニ置クトハ他人ヲ欺キ真正ノ貨幣トシ  
 テ之カ交付ヲ受ケルコトヲ意味スルモノニシテ偽造罪共犯ノ一人又

第三

ハ偽造貨幣タルノ情ヲ知ル者ニ交付スルカ如キハ茲ニ所謂行使ニ非サル  
 モノトス  
 第三ノ要素 犯罪ノ意思アルコトヲ要ス  
 諸般ノ罪過失又ハ違警罪ニ非ナル限りハ皆意思ヲ要ス此事已ニ總則ノ講  
 義ニ於テ諸君ノ了知セラル、所更ニ説明ヲ要セスト雖モ法律カ犯罪トセ  
 ルモノニハ種々ノ所爲アリテ其之ニ要スル意思ノ狀態亦同シカラス隨テ  
 先ツ明文ニ依テ各犯罪ノ性質ヲ詳ニシタル後更ニ總則ノ規定ト  
 照合シタル後ニ非スハ眞ニ總則所謂犯罪ニハ意思ヲ要ストノ意義ヲ詳  
 ニスルヲ得サルノ結果單ニ總則所謂犯罪ニハ意思ヲ要ストノ觀念ノミニ  
 コリテ各罪ノ意思ヲ定メントスルトキハ往々ニシテ誤ヲ生スルコトアリ  
 本罪ノ如キ特ニ然リトス是レ余カ茲ニ此要素ヲ掲タル所以ナリ法文ヲ案  
 スルニ(一)第八十二條乃至第八十五條ニハ偽造又ハ變造シテ行使シタ  
 ル者(二)第八十六條以下ノ條ニハ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル者又  
 ハ偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受シ未タ行使セサル者又ハ偽造變造ノ

貨幣ヲ輸入シタル者云々トアリ茲ニ於テ皮想ノ見解ヲ以テスルトキハ第一ノ如クハ行使セタル者トアル所爲ハ行使ノ意思アルニ非サレハ罪ヲ構成セスト雖モ第二ノ如ク行使ニ至ラサル者ヲ罰スルモノハ行使ノ意思ナキモ直チニ罪ヲ構成スルカ如キモイ一方ニ於テ(一)偽造變造已ニ成テ未タ行使セザルトハ自ラ偽造變造ハ行使ノ意思アルコトヲ表白セルト同時ニ本間偽造變造未タ成ラサル者云々以下ノ所爲ハ其ノ字ヲ以テ之ニ連接セラルカ故ニ其前者ト同一ノ意思ヲ要スルコト明ナルト(二)第百八十九條第百九十條ニ於テモ偽造變造ノ刑ニ同シ又ハ、ノ刑ニ照シテ何等ヲ減ストアリテ彼此同性質ノモノナルカ故ニ彼レト同一ノ意思ヲ要スルコトヲ明ニセルノミナラス現ニ第百九十條第二項及ヒ第百九十二條ニハ未タ行使セザル者云々ノ文字アリテ前ニ述ヘタルト同シタ始メヨリ行使ノ意思アルコトヲ要スルコトヲ明ニセルト(三)他ノ一方ニ於テ本罪ハ害信用罪ニシテ害信用ヲ結果ハ行使ニ依テノミ始メテ生ス可キモノタルトニ依テ之ヲ觀レハ本章規定スル處ノ罪ヲ構成スル爲メニハ何レモ始メヨ

リ之ニ依テ公ノ信用ヲ害ス可キ結果ヲ生セシムルノ意思換言スレバ其實然ノ結果トシテ信用ヲ害スルノ行爲タル行使又ハ流通ニ置クノ所爲ヲ自己又ハ他人ヲシテ爲サシムルヲ意思アルヲ要スルモノニシテ夫ノ美術研究ノ爲メ貨幣ヲ模擬變更シ又ハ官署ニ届出テ若クハ學術研究ノ爲メ之ヲ輸入取受スルカ如キ單ニ偽造變造輸入取受ノ意思ノミアリテ行使ノ意思ナキモノハ決シテ本罪ヲ構成セザルモノトス依テ一言ス「本罪トシテ處罰スル偽造變造ノ所爲及ヒ之ニ類スル詐欺取財ノ所爲ト無罪タル可キ模造ノ所爲トノ區別ハ技術ノ巧拙ニ在ラス偏ニ贋造品ヲ行使スル意思ノ存否ニ在リ二本罪ト其之ニ類スル詐欺取財トノ區別ハ其贋貨カ社會公衆ヲシテ一見精細ナル調査ヲ爲スニ非スシハ眞貨ナリト誤信セシムルノ程度ニ達シタルヤ將タ例ヘハ貨幣ノ形狀ヲモ熟知セサル者ニ對シ又ハ眞貨ヲ辨識スルコトヲ得サル夜陰等ニ乘スルニ非スシハ以テ容易ニ其貨幣ニ非ナルコトヲ認識スルコトヲ得ザルモノ、如ク僅ニ常識ナキ者又ハ常識ヲ用フルコトヲ得サル狀況ニ在ル者ノミヲ欺クニ足リ決シテ普通一般

ノ人ヲ誤ラシムルコトヲ得ヘキ程度ニ達セザルヤニ存スルモノニシテ  
 單ニ之ヲ言ヘハ常識ヲ以テ眞偽ヲ辨スルコトヲ得ルヤ否ヤニ存ス何ヲ以  
 テ常識トスルヤハ裁判官ノ判斷如何ニ在リルカ故ニ畢竟其區別ハ摸擬ニ  
 付テノ技術ノ巧拙如何ニ存スルモノトス。○  
 右ニ説明シタル如ク本罪ヲ構成スル爲メニハ其偽造變造タルト輸入取受  
 タルトニ論ナク凡テ其行爲ト同時ニ之ニ伴フ。○信用ヲ害スル結果ヲ生セ  
 レムルノ意思アルヲ要スルカ故ニ夫ノ例ヘハ始メ美術研究ノ爲メ偽造變  
 造シタル物若クハ官署ニ届出テ又ハ學術研究ノ爲メ輸入又ハ取受シタル  
 物ナルヲ偶然惡意ヲ生シ之ヲ行使又ハ行使セシメタルカ如キハ之ヲ偽造  
 變造又ハ輸入取受シテ行使シタルモノト云フヲ得ス單ニ偽造變造ノ貨幣  
 ヲ行使シタル所爲後ニ説明スル所ヲ參考ス可シアリト云フヲ得ルノミニ  
 シテ律ニ明文ナキカ故ニ無罪タラサルヲ得スト確信ス多少ノ反對論アル  
 モ情實ニ流レ論理ヲ貫徹セズ然レトモ本問題ハ之ヲ次ノ問題即チ自ラ行  
 使シ又ハ他人ヲシテ行使セシムルノ目的ヲ以テ偽造變造又ハ輸入取受シ

タルモ其所爲ノ時効又ハ確定判決ヲ經過シタル後ニ之ヲ行使シタル者及  
 ヒ他人カ美術研究ノ爲メニ摸造變造シタル貨幣ヲ得テ之ヲ行使シタル者  
 ノ處分如何トノ問題ト混同セサルコトヲ要ス蓋シ第一ノ場合ニ於テ行使  
 ノ意思ヲ以テシタル偽造變造輸入取受ハ已ニ時効又ハ確定判決ヲ經タリ  
 ト雖モ其所謂時効又ハ確定判決ナルモノハ偽造變造輸入取受ヲ更ニ若ク  
 ハ再ヒ獨立ノ一罪トシテ罰スルコトヲ得サルノ効力ヲ有スルハミニシテ  
 後ニ行使セラレタル偽造貨幣カ被告ノ營テ惡意ヲ以テ作製シタル物ナリ  
 トハ事實マテヲモ消滅セシムルノ力ヲ有スルモノニ非ス此事實ニシテ依  
 然消滅スルコトナクンハ後ノ行使ハ之ト相合シテ完全ニ罪ヲ構成スルモ  
 ノニシテ前者ノ如ク始メヨリ行使ノ惡意ナク隨テ偽造變造輸入取受行使  
 ノ罪ノ一要素ヲ缺如セルモノト大ニ趣ヲ異ニシ第二ノ場合ニ於テ成程其  
 行使シタル物件ハ他人ノ惡意ナク摸造シタルモノタリト雖モ作製ニ付テ  
 ノ惡意ノ有無ハ單ニ作製者ノ責任ニ變動ヲ生スルノミ作製者ヲ離レ物ノ  
 ミテ觀察スルトキハ作製者ニ於テ惡意ナキモ惡意アルモ其物ハ事實上偽

造ノ實體ヲ具備スルモノニシテ作製者ノ惡意ノ有無ハ作製者ヲ離レテ之ヲ行使スル者ノ責任ニハ何等ノ影響ヲ有ス可キ理由ナキカ故ニ偽造貨幣ノ行使者トシテ有罪タル可キヤ疑ヲ容ルルノ餘地ナク前者ノ如ク作製者タル行使者ノ責任如何ヲ論スルモノトハ大ニ異ル所アレハナリ

終ニ臨ミ尙ホ一言ス凡ソ貨幣ヲ偽造變造シ又ハ情ヲ知テ之ヲ輸入收受スルノ行為タルヤ普通信用ヲ害スルノ目的ヲ有スル行為ナルカ故ニ非常ノ情況ハ之ヲ證セサル可カラズ普通ノ情況ハ之ヲ證スルコトヲ要セストノ證據法ノ原則ニ依リ原告官タル檢事ハ進テ被告ニ於テ信用ヲ害スルノ意思アルコトヲ證明スルノ要ナシ其意思ナシトスル被告ニ於テ却テ之ヲ證明セサル可カラサルカ故ニ判文ニ於テモ亦普通ノ狀況ニ異ル決定ヲ採ル場合ニ於テノミ行使ノ意思ナキコトヲ明言スルノ要アリ之ニ反シテ單ニ偽造貨幣ヲ輸入收受若クハ行使スル行為タルヤ之カ情ヲ知ルハ非常ノ事ニ屬スルカ故ニ被告ハ其情ヲ知ラサルコトヲ證明スルノ要ナシ却テ情ヲ知レリト主張スル檢事ニ於テ之ヲ證明セサル可カラサルカ故ニ其カカ利

文ノ體裁モ亦前者ト正反對ニ出テサル可カラサルモノト云フ勞氏佛國刑法論第三卷第六〇號

第二款 處分

近世開明諸國ノ法典ニ於テハ貨幣偽造罪ノ處分ヲ定ムルニ當リ概テ皆(一)貨幣ノ性質(二)貨幣ノ流通力(三)所爲ノ性質(四)所爲ノ程度ノ四點ヲ參酌シテ之カ處分ヲ加減セリ我草案編纂者諸氏モ亦之ニ倣ヒテ本罪ノ處分ヲ定メタリシカ修正ノ際第二ノ點ノミハ斥ケラレテ發行ノ内國タルト外國タルトノ區別之ニ代レリ(佛草案註釋四六五號)

第一 貨幣ノ性質ニ付テ 法典ヲ按スルニ同一ノ所爲ニ付テ金銀貨及ヒ紙幣ニ關スルモノハ其處分皆同一ニシテ獨リ銅貨ニ關シテノミ著シク其處分ヲ輕減セリ(二)金銀貨ニ關スルモノヲ同列ニ置キタルハ其ニ高等貨幣ニシテ實價ニ大差ナキカ故ニ其偽造變造行使等ノ行為ニヨリ社會ニ流布スル害惡亦大差ナシト云フニ在ラン(三)紙幣ヲ金銀貨ニ準シタルハ其必ス金銀貨ノ命價ニ準シテ製作セラレ決シテ銅貨ニ準セラルルコトナキカ故ナラン(佛文章案

註釋四三七號參照三銅貨ニ關スル所爲ノ金銀貨又ハ紙幣ニ關スルモノヨリモ著シク輕減セラル、所以ハ銅貨ハ金銀貨又ハ紙幣ニ比セハ其價格甚タ微小ナルニモ拘ハラズ其製作ノ費用及ヒ勞力ニ於テハ少トモ極庭ナキカ故ニ其依テ犯人ノ得ヘキ利益彼ノ如ク大ナラサルト同時ニ社會ノ被ル所ノ害モ亦彼ニ比セハ霄壤霄ナラサルニ在ラン——一方ニ於テ罪ト刑トノ權衡ヲ重シ他ノ一方ニ於テ裁判官ノ自由ヲ制限スルノ主義ヲ採用シタル我刑法ノ規定トシテハ區別較ヤ微細ニ過クト云フノ外格別非難ス可キ點ナカラシ(因ニ云フ我輩ト共ニ伊國及ロ米國等ニ行ハル、新學派ノ學說ヲ主張スル者ハ皆此ノ如キ杓子定木ノ規定ヲ設クルコトヲ非難スト雖モ現今歐米諸國ノ刑法ハ今尙ホ我刑法ト同一ノ主義ニ依リ同一ノ規定ヲ爲スモノ多數ニシテ此ニ揭クルカ如キ區別ヲ斥ケタルモノ甚タ稀レナリ)

第二 所爲ノ性質ニ付テ 法典ハ同一ノ貨幣ニ對スルモ其所爲ノ偽造タルト變造タルトニ因リテ處分ヲ異ニシ變造ハ偽造ヨリモ幾分ノ輕減ヲ爲セリ草案註釋ノ說明スル所ニ據レハ偽造ハ全ク新ナル原料ヲ以テ作製スルモノニ

シテ通常模型其他ノ器械ニ因ルモノナルカ故ニ一旦之ヲ準備スルトキハ同時ニ多數ノ偽貨ヲ得ヘシ隨テ其危險甚タ大ナリ之ニ反シ變造ハ真正ナル貨幣ヲ原料トセサル可カラサルモノニシテ通常個々ニ對シテ秘密ナル工作ヲ施サ、ル可カラス即チ若シ夫レ眞貨ヲ穿テ其實價ヲ奪ヒ填スルニ他ノ金屬ヲ以テセンカ工巧ナラント欲セハ勞多クシテ利少クシテ利多カラント欲セハ工巧ナラサルノ結果容易ニ發見セラル、ノ恐アリ單ニ實價ヲ減少センカ僅少ナラサレハ發覺ノ恐アリ着色又ハ命價ヲ變更センカ異價ノ貨幣ハ大小各同シカラサルカ故ニ容易ニ一般ノ者ヲ欺クコトヲ得サルノ結果其危險偽造ノ如ク大ナラスト法典ノ理由モ亦之ニ外ナラザラン——此理由ハ一般ノ觀察トシテハ(特殊ノ場合ヲ擧ケレハ必スシモ草案說明スルカ如クナラサルモ)必スシモ非難ス可キモノニ非ス隨テ罪刑ノ權衡ヲ重ンスル我刑法ノ規定トシテハ亦已ム可カラサルノ區別タル可シト雖モ余カ義ニ說明シタルカ如ク微細ノ點ニ入ルトキハ偽造ト變造トノ區別ハ畢竟程度ノ區別ニ過キサルノ結果適用ニ臨ミ甚タ困難ナル問題ヲ生スルコトアル可キカ故ニ寧

ロ之ヲ開放シテ判事ノ自由ニ委ヌルニ若カス  
 第三 貨幣發行ノ内外國ニ付テハ第八十二條ニハ單ニ「内國通用金銀貨……」トノミアリテ其内國發行ノモノタルト外國發行ノモノタルトヲ區別セサルカ如キ觀アリト雖モ同シク金銀貨ノ偽造變造ヲ規定シタル第八十三條ニ於テ特ニ内國ニ通スル外國ノモノ、ミテ規定セルト第八十四條更ニ「内國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス」トノ明文アルトニ依テ之ヲ觀レハ第八十二條所謂内國通用ノトハ内國通用ノ内國ノ貨幣ニ限ルモノニシテ其同文ヲ用ヒタル第八十五條ノ銅貨ニ關スル規定モ亦内國ノ貨幣ニ限ルモノトス以上ノ決定ニシテ謬ナカラシカ我輩カ先ニ述ヘタル如ク我立法者ハ發行ノ内外ヲ問ハス總テ其流通力ノ如何ニ依リテ處分ヲ異ニセントノ草案編纂者ノ主義ヲ斥ケ之ニ代フルニ内外國ノ區別ヲ以テシタルモノトス貨幣發行ノ内外ニ國テ處分ヲ異ニシタルハ畢竟之ニ依テ一個人ノ被ル所ノ害ハ彼此異同ナキモ外國貨幣ノ信用ヲ失墜スルノ害ハ内國ノ貨幣ニ關スルカ如ク大ナラスト云フニ在ラン蓋シ進歩シタル今日ノ思想ニ適セサル區別

ナリトス  
 第四 所爲ノ程度ニ付テハ法律ハ貨幣ノ偽造變造ニ關スル諸般ノ所爲ヲ列舉スルト同時ニ罪ト刑トノ權衡ヲ重スルノ主義ニ從ヒ各所爲皆行使ヲ以テ最

高度トシ漸次數段ノ階級ニ依リ處分ヲ異ニセリ  
 (甲) 偽造變造ノ所爲ニ付テハ此所爲ハ便宜ノ爲メ主タルモノト從タルモノトニ分テテ説明ス可シ

(一) 主タルモノ  
 分ヲ定ムルモノノ左ノ如シ  
 (イ) 偽造又ハ變造行使シタル場合  
 内國ニ合法ノ通用力ヲ有スル内國ノ金銀貨及ヒ紙幣ニ關スルト、内國ニ通用スル外國ノ金銀貨若クハ官許ヲ得テ發行スル外國銀行ノ紙幣ニ關スルト内國ニ合法ノ通用力ヲ有スル銅貨ニ關スルトニ依リテ處分ヲ異ニス第一ノ場合ニ於テハ偽造行使ハ無期徒刑變造行使ハ輕懲役第二ノ場合ニ於テハ偽造行使ハ有期徒刑變造行使ハ二年以上五年以下ノ重禁錮第三ノ場合ニ於テハ偽

進行使ハ輕懲役變造行使ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス第百八  
 二條乃至第八五條説明ヲ須ホス  
 (ロ)偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル場合 各本刑ニ照シ一等ヲ減ス(第  
 一八六條各本刑トハ第百八十二條乃至第百八十五條ニ規定セタル偽  
 造又ハ變造行使ノ刑ヲ云フ)等ノ輕減ハ總則ノ適用ニ依リ諸君ノ各  
 自之ヲ試ム可キ所説明ノ限ニ在ラス法文ニハ未タ行使セサル者トア  
 リテ未タ行使セザルトハ未タ全ク行使ニ着手セサルカ若クハ已ニ行  
 使ニ着手シタルモ行使セシテ中止セタル場合ノミヲ指シ行使ニ着  
 手シタルモ意外ノ障礙舛錯ニ因リ之ヲ遂クルコト能ハサリシ場合ヲ  
 包含マサルカ如キ語氣アルヨリシテ論者或ハ罪刑其權衡ヲ失スルノ嫌  
 有リテアルモ嚴格ナル解釋ヲ重スル刑法ノ解釋トシテハ後段ノ場合ハ總則  
 第百十二條第百十三條ノ規則ニ依ラサル可カラスト主張スルモノア  
 リト雖モ是レ畢竟法文ノ用語ヲ咎ムルモノニシテ正當ノ解釋ニ非ス  
 蓋シ一論者モ已ニ之ヲ認ムルカ如ク論者ノ說ハ我刑法ノ主義ニ反シ

テ罪刑其權衡ヲ失スルトニ下文其未タ成ラサル者ヲフ文辭ハ結果ニ  
 付テ云ヒタル語ナルカ故ニ意外ノ障礙舛錯ニ因テ遂ケザリシ場合ヲ  
 モ亦明ニ之ヲ包含スルノ語ニシテ彼ト此トハ規定ヲ異ニセサル可カ  
 ラサルノ理由ナキトニ依テ之ヲ觀レハ法文ノ意決シテ論者ノ解スル  
 カ如クナラサルヤ明ナルノミナラス其未タ行使セサル云々ノ文辭モ  
 亦必スシモ未遂犯ノ場合ヲ包含セスト斷言スルコトヲ得ル程ニ正確  
 ナル語辭ニ非サレハナリ  
 (ハ)偽造變造未タ成ラサル場合 各本刑ニ照シ二等ヲ減ス各本刑ト減等  
 ノ事ニ付テハ説述セス其偽造變造未タ成ラサルトハ偽造變造ノ豫備  
 乃至偽造變造ニ着手シタルモ意外ノ障礙舛錯ニ因リ之ヲ遂ケサル者  
 ヲ包含スルカ如キ語氣アルモ次項直チニ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ  
 着手セサル者ハ各三等ヲ減ストノ規定アリテ偽造ノ豫備ノ最モ大ナ  
 ル器械ノ豫備ヨリモ輕微ナル其他ノ豫備又ハ變造ノ豫備ヲ重ク罰ス  
 可キノ理由アル可カラサルニ依テ之ヲ觀レハ茲ニ其未タ成ラサル者

トハ(中止ニ因ルト意外ノ障礙并錯ニ因ルトヲ問ハス)總テ偽造又ハ變造ニ着手シタルモ其事ノ未タ成ラサル者ヲ意味スルモノニシテ豫備ノ場合ヲ合マサルモノトス

(一)偽造ノ器械ヲ豫備シタルニ止マル場合 各三等ヲ減ス各三等トアルハ各本刑ニ照シ三等ヲ減ストノ略文ナリ法文ニハ偽造ノ器械ヲ豫備シタル者トアリテ偽造ノ豫備中器械ヲ豫備シタル者ニ限ルカ故ニ變造ノ豫備ハ勿論偽造ノ豫備ト雖モ器械ノ豫備以外ノモノ例ヘハ金塊ヲ買入レ資本ヲ蒐メ工場ヲ造ルカ如キハ此規定以外トス尙ホ注意ス可キハ偽造ノ器械トアルカ故ニ例ヘハ模型印刷器ノ如キ貨幣ノ偽造ニ固有ノモノタルヲ要ス廣ク他ノ所爲ニモ用ヒラル可キ有合セノ器具ハ此中ニ入ラス

(二)從タルモノ 貨幣ノ偽造變造ノ從タル所爲ニ付テ法律カ特ニ處分ヲ定ムルモノ左ノ如シ

(天偽造變造ノ完成以前ニ罷スルモノ)

(イ)偽造變造ノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工及ヒ其補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者 第八十七條ニ曰ク「貨幣ヲ偽造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス」若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減スト即チ法律ハ第八十二條乃至第八十六條ニ照シ主タル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ職工ニ對シテハ一等ヲ減シ其補助ヲ爲シタル者ニ對シテハ二等ヲ減シテ處斷ス例ヘハ第八十二條ノ貨幣ニ關スル場合ニ主タル犯人ニ於テ偽造行使ノ所爲アルトキハ職工ハ無期徒刑第八十二條ヨリ一等ヲ減シテ有期徒刑ニ其補助ヲ爲シタル者ハ有期徒刑ヨリ一等又ハ二等ヲ減シテ重懲役又ハ輕懲役ニ處シ偽造已ニ成テ未タ行使セサルトキハ職工ハ無期徒刑(第八十二條)ヨリ一等ヲ減シタル有期徒刑(第八十六條)ヨリ一等ヲ減シテ重懲役ニ其補助ヲ爲シタル者ハ重懲役ヨリ一等又ハ二等ヲ減シテ輕懲役又ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ

處シ偽造未タ成ラサルトキハ職工ハ無期徒刑第百八十二條ヨリ二  
 等ヲ減シタル重懲役第百八十六條ヨリ一等ヲ減シテ輕懲役ニ其補  
 助ヲ爲シタル者ハ輕懲役ヨリ一等又ハ二等ヲ減シテ二年以上五年  
 以下又ハ一年六月以上三年九月以下ノ重禁錮ニ處シ偽造ノ器械ヲ  
 豫備シテ未タ着手セザルトキハ職工ハ無期徒刑第百八十二條ヨリ  
 三等ヲ減シタル輕懲役第百八十六條第二項ヨリ一等ヲ減シテ二年  
 以上五年以下ノ重禁錮ニ其補助ヲ爲シタル者ハ二年以上五年以下  
 ノ重禁錮ヨリ一等又ハ二等ヲ減シテ一年六月以上三年九月以下又  
 ハ一年以上二年六月以下ノ重禁錮ニ處スルカ如シ疑ナキ問題ナリ  
 然ルニ夫ノ減學者カ職工ハ自身貨幣ノ偽造變造ニ從事シタルモイ  
 ニシテ畢竟貨幣偽造變造ノ所爲ノ正犯ナルカ故ニ貨幣偽造變造ノ  
 刑ニ處ス可キモノナルモ本ト他人ヨリ些少ノ勞銀ヲ受ケテ之ニ從  
 事シタル者ナルカ故ニ情ニ於テ原諒ス可キモノアルヲ以テ法律ハ  
 之ニ一等ノ輕減ヲ與フルコト、シタルモノナルカ故ニ職工ノ處分ハ

雇主ノ行爲ニ拘ハラズ獨立シテ常ニ自ラ其正犯トシテ從事シタル  
 行爲ニ對スル刑即チ貨幣ヲ偽造變造シテ未タ行使セザル者ニ對ス  
 ルノ刑ヨリ一等ヲ減ス可キモノニシテ之ヲ雇入レテ偽造變造セシ  
 メタル雇主ノ刑ヲ標準トシテ減等ス可キモノニ非ス蓋シ若シ夫レ  
 然ラシカ他人ノ所爲ニ因リテ其刑罰ヲ輕重セラル、ノ結果ヲ生ス  
 レハナリト主張スルカ如キハ(一)第百八十七條前數條トハ明ニ第百  
 八十二條乃至第百八十六條ヲ指スモノタルノ法文ニ反スルノミナ  
 ラス(二)貨幣偽造ノ所爲カ罰セラル、ハ信用ヲ害スル行使ノ意思ア  
 ルカ故ニ又職工ノ所爲カ罪トナルハ本ト行使ノ意思アル者ヲ補助  
 シタルカ故ニシテ雇主ノ所爲ト職工ノ所爲トハ原因結果ノ關係ヲ  
 有スルモノナルカ故ニ純理上職工ノ處分ハ雇主ノ處分ト相伴ハザ  
 ル可カラサルノ理由アルヲ忘却シタルモ、ニシテ探ルニ足ラサル  
 點見ナリ

法文ニハ雇ヲ受ケタル職工トアルカ故ニ職工トシテ雇主ノ家ニ雇

入レラレタル者ニ限ルカ如キ觀アリト雖モ法文ノ意ハ畢竟勞金ヲ受ケテ偽造變造ニ關スル工事ニ從事スル者トノ義ナルカ故ニ假令其家ニ雇ヒ入レラレスシテ獨立ノ營業ヲ爲セル印版又ハ模型彫刻師若クハ印刷師ト雖モ勞銀ヲ受ケテ其職業ニ從事シタル者ハ亦茲ニ所謂雇ヲ受ケタル職工タル可シ又一方ニ於テ職工他ノ一方ニ於テ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者トアルカ故ニ職工トハ偽造變造ノ工作ニ從事セル技手ヲ其補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者トハ技手ノ使用セル日雇又ハ丁稚等直接雇主ニ屬セル單ニ技手ノ使役ニ供シタル者ヲノミ指スカ如キ觀アルモ法文ノ意ハ畢竟直接ニ偽造變造ノ工事ヲ爲シタル者ト然ラサル者トヲ區別セントニ在ルモノナルカ故ニ假令直接雇主ニ隸屬スル者ト雖モ偽造變造ニ直接ナル工作ヲ爲ス者ヲ補助シテ其下働キヲ爲シタル者ハ皆此中ニ入ルモノトス

尙ホ終ニ職工ニ於テ其偽造變造シタル貨幣ヲ自行行使シタルトキ

ハ如何反對論アリト雖モ余ハ第八十七條ト取受行使ノ罪トノ數罪俱發ヲ以テ論スキモノト信ス(本節第一款第三成立要素中段說明參看)

(ロ)貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者 第六十八條ニ曰ク貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス茲ニ偽造變造ノ各本刑トハ如何ナル意義ナルハ第八十六條ニモ前數條ニ記載シタル貨幣ノ云々各本刑トアリテ文字相類スルカ故ニ人ハ房屋ノ給與者ハ職工ノ場合ニ異リ主タル犯人ノ受タ可キ刑罰ノ如何ニ拘ハラス常ニ第八十二條乃至第八十六條ノ刑ヨリ二等ヲ減シテ處斷スルモノニ非スヤトノ疑ヲ起スモノアル可シト雖モ立法ノ意ハ第八十七條ノ場合ト同シ第八十二條乃至第八十六條即チ主タル犯人ノ受タ可キ刑ニ照シテ輕減スルニ在ルモノニシテ其第八十七條ト同一ノ筆法ニ依ラサリシハ第八十七條ノ在ルアリテ前數條ト云フ

ヲ得ナリシカ故ナリ蓋シ(一)第二百一十一條第二項第四號ト第二百一十七條情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者トハ共ニ其刑二年以上五年以下ノ輕禁錮ニシテ法律ハ情ニ於テ之ヲ同視セリトノ關係ヲ見ルモ其刑ノ職工又ハ其補助ヲ爲シタル者ト伯仲セサル可カラサルノ理由アルノミナラス(主タル犯人ノ受ク可キ刑ヨリ二等ヲ減スルトキハ常ニ職工又ハ其補助ヲ爲シタル者ノ刑ト相伯仲ス(二)前段ノ如ク解スルトキハ房屋給與ノ所爲ハ其實從犯ノ所爲タルニ拘ハラス時ニ或ハ主タル犯人ヨリモ重キ刑罰ヲ受クルノ不結果ヲ生スレハナリ——茲ニ附隨トシテ簡單ナル一問題アリ曰ク貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ニ偽造變造スル爲メノ房屋ヲ給與シタル者ハ如何ニ之ヲ處斷ス可キヤ此問題ニ對シ人或ハ是レ職工ノ從事セル偽造變造ノ所爲ヲ補助シタルモノナルモ之ヲ以テ雜役ニ供シタル者ト云フヲ得アルカ故ニ總則從犯ノ規定ニ依リ正犯職

工ノ受ク可キ刑ヨリ一等ヲ減シテ處斷ス可キモノナリ若クハ職工ハ本ト從犯ニシテ從犯ノ從犯ナキカ故ニ刑法第二條所謂律ニ明文ナキモノトシテ無罪タラサル可カラスト云フ者アル可シト雖モ余ハ簡單ニ主タル犯人ニ給與スルモ職工ニ給與スルモ其偽造變造ノ所爲ニ加効シタル所爲ノ程度若クハ性質ニ毫モ異同ナキノミナラス何レノ場合ニ於テモ常ニ法文所謂情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者タルヲ失ハサルヲ以テ疑モナク第百八十八條正面ノ適用ヲ受ク可キモノト斷言ス

右ノ外例ヘハ偽造變造ノ器械又ハ之ニ要スル資本ヲ支給スルカ如キ從タル行爲中理論上不同ニ措ク可カラサルモノ渺カラサルニ依テ之ヲ觀レハ右ノ規定ノ外更ニ總則ヲ適用ス可キ場合アリトス可キカ如キモ法律カ性質上從犯タル可キ行爲タル雇ヲ受ケタル職工其補助ヲ爲シタル者及ヒ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者等ノミニ付テ特別ノ明文ヲ設クルノ趣旨ヨリ之ヲ按スルトキハ立法ノ意ハ蓋シ之ニ依テ賃

幣偽造變造ニ關スル總テノ從タル可キ行爲ヲ網羅シタルノ考ニシテ恐ラク更ニ總則ノ適用ヲ爲ス可キモノニ非カラシムルニ非キテ、  
 (地)偽造變造ノ行爲以後ニ關スルモノノ適用ニ關シテハ、  
 取受シタル者ニ付テハ初ヨリ偽造變造ノ情ヲ知リタルト否トヲ分テ各所爲ノ階級ニ依リテ處分ヲ異ニス  
 一、初ヨリ情ヲ知テ取受シタル場合ニ行使シタルトキハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ各二等ヲ減シ其未タ行使セサルトキハ各三等ヲ減ス(第九十條別ニ說明ス可キモノナシ)唯一問題トシテ注意ス可キハ偽造變造ノ貨幣タルコトヲ知り偽造又ハ變造シタル者即チ主タル犯人ノ依頼ヲ受ケ單ニ之ヲ甲倉庫ヨリ乙倉庫ニ運搬シタル者ノ處分如何主タル犯人ノ行使ヲ容易ニシタル豫備ノ所爲ニモ非ス取受ニモ非ス蓋シ知情取受ノ所爲トシテ罰スルコトヲ得ルカ爲メニハ少クトモ自ラ又ハ他人ヲシテ行使セシムルノ意思アルコトヲ要スルハ第九十條第二項未タ行使ノ文字アルニ依テ明ニシテ本問犯人ハ此意思

ナケレハナリ)恐ラク明文ヲ欠クモノトシテ無罪ナランカ  
 二情ヲ知ラスニテ取受シタル場合(イ)行使セサルトキハ無罪後テ情ヲ知テ行使シタルトキハ其偽造變造貨幣ノ價額ニ倍ノ罰金ニ處ス但罰金ノ額ハ二圓以下ニ下スヲ得ス(第九十三條)此末文ノ意ハ恐ラク其額二圓ニ滿タサルトキハ二圓ノ罰金ニ處スノ意ニシテ二圓以下ハ酌量減輕タモ向ホ禁ストノ意ニ非サル可シト降スコトヲ得スト云フノ強キ語句ハ或場合ニハ降スコトヲ得トノ意義ヲ有セル總則酌量減輕ノ規定ト相矛盾スルモノナルカ故ニ此規定ハ總則酌量減輕ノ適用ヲ斥クルモノニシテ二倍ノ額二圓以上ニ滿タサルトキハ勿論二圓ヲ超ユルトキト雖モ酌量シテ二圓以下ニ降スヲ得スト解釋スルノ已ム可カラサルモノアラシム(ハ)自由刑ヲ科セスシテ罰金刑ヲ科スル所  
 以ハ本場合ニ於テハ他ノ場合ノ如ク犯人ニ於テ偽造變造ノ貨幣ニ依テ害悪ヲ社會ニ流サントノ深キ意思アルニ非ス犯人ノ之ヲ行使シタルハ(多ク)場合ニ於テ其先ニ自ラ取受ニ依テ失ヒタル損失ヲ償ハシ

トニ在ルモノニシテ畢竟貪慾ノ結果ナルカ故ニ之ヲ懲戒防遏スルハ更ニ過大ノ損失ヲ受クルノ恐アラシムルヲ以テ足レリトシタルニ依ルナリ

②輸入シタル所爲ニ付テ 第八十九條ニ曰ク偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シト是レ輸入ハ之ニ依テ偽造變造ノ貨幣ヲ我國土内ニ生レシムルモノニシテ其所爲之ヲ偽造又ハ變造スルモノト毫モ異ル所ナキカ故ニシテ偽造貨幣ニ對スルモノハ貨幣偽造ノ所爲ニ變造貨幣ニ對スルモノハ貨幣變造ノ所爲ニ何レモ第八十二條乃至第八十六條ノ規定ニ準テ處斷ス別ニ説明ス可キモノナシ唯其從タル行爲例ヘハ偽造貨幣ヲ輸入スルコトヲ知テ之ニ船舶ヲ給與シ其船舶ノ船長ト爲リ又ハ之ヲ荷卸シタル者等ニ付テハ偽造變造ノ場合ノ如ク特別ノ明文ナキカ故ニ總則從犯ノ規定ニ依リ適應ノ處分ヲ爲ス可キモノトス

(附加第九十三條以外ノ規定ニ共通スル特別處分法 第九十三條以外ノ規定ニ共通ナル特別法二アリ即チ

一 第九十一條ニ曰ク前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

二 第九十二條ニ曰ク貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取受シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第一ハ從來屢遭遇シタル條文第二ハ第二百二十六條ト同一ナレハ茲ニ再ヒ説明ノ勞ヲ探ラス須ラタ先ニ説明シタル所ヲ參照シテ自得セラル可キ最終ニ立法論トシテハ尙ホ論述ス可キコト甚タ多シト雖モ時間ノ故ヲ以テ省略シ唯缺點多キ規定ナルヲ以テ改正ノ時ニ臨マハ大修正ヲ要ストノ一言ヲ留ム

### 第二節 官印ヲ偽造スル罪

法律ハ第九十四條乃至第二百一條ヲ以テ一官印ヲ偽造又ハ使用スル罪二官

印ヲ盗用スル罪三各種ノ印紙、界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造、變造又ハ使用スル罪四、各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用スル罪ヲ規定シ冠スルニ本節官印ヲ偽造スル罪ヲ題名ヲ以テセリト雖モ是レ編纂ノ體裁ニ於テ甚タ不可ナルモノアリ宜シク第三第四ノ罪即チ印紙、界紙及ヒ郵便切手ニ關スル罪ハ之ヲ貨幣又ハ文書偽造罪ノ節目中ニ規定シ第一第二ノ罪即チ官印ニ關スル罪ハ後ニ規定セル私印偽造ノ罪ト併括シテ冠スルニ官私ノ印章ヲ偽造スル罪ヲ名稱ヲ以テス可シ

右ノ如ク本節ハ少クとも全ク性質ヲ異ニセル二種ノ犯罪ヲ包含セルモノナルヲ以テ余ハ之ヲ官印ノ偽造ニ關スル罪ト各種ノ印紙、界紙及ヒ郵便切手ノ偽造ニ關スル罪トノ二款ニ分チ第一款ニ於テ官印ヲ偽造又ハ其偽印ヲ使用スル罪及ヒ官印ヲ盗用スル罪ヲ第二款ニ於テ各種ノ印紙、界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造又ハ使用スル罪及ヒ各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用スル罪ヲ講究セントス

第一款 官印ノ偽造ニ關スル罪

第一項 官印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用スル罪

官印ヲ偽造又ハ使用スル罪ハ第九十四條乃至第九十六條ノ規定スル所ニシテ

第九十四條ニ曰ク「御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス」第九十五條ニ曰ク「各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス」第九十六條ニ曰ク「產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス」書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス」下即チ本罪ヲ構成スル爲メニハ

- 第一 所爲ノ目的物ハ官印ニ關スルコト
- 第二 偽造又ハ使用ノ所爲アルコト
- 第三 意思アルコト
- 第一ノ要素 所爲ノ目的物ハ官印ニ關スルコト
- 印トハ或物體ノ一定ノ表面ニ存スル一定ノ形狀ヲ他ノ物體ニ押捺シテ常ニ

一定ノ影蹟ヲ永久的ニ現出セシメ以テ或ル事實ヲ證明スルノ用ニ供スルモノニシテ濕用ノモノト乾用ノモノトアリ一私人ノ證明ニ用フルモノヲ私印ト云ヒ官ノ證明ニ用フルモノヲ官印ト云フ

法律ハ官印ノ重要ナルモノニ關スルト然ラサルトニ依テ刑罰制裁ヲ異ニセシカ爲メ茲ニ官印ヲ分チテ一御璽國璽ニ各官署ノ印三產物又ハ商品等ニ押用スル印四書籍什物等ニ押用スル印ノ四種トセリ

一御璽國璽 御璽トハ天皇ノ御印文ニ 天皇御璽トアリ國璽トハ日本帝國ノ印文ニ大日本帝國璽トアリ其他如何ナル場合ニ鈐セラレハモノナルヤ  
明治十九年二月勅令第一號公文式第十四條以下ノ規定ニ依リ其一般ヲ知ル可シ

二各官署ノ印 官署トハ國家爲政ノ機關タル各官府及ヒ其部局ヲ云フ官署ノ印トハ各官府カ國家爲政ノ機關トシテ爲シタル行爲ヲ證明スルモノヲ詳言言スレハ何省何院何廳何裁判所ノ印ト云フカ如ク其官署ノ名ノミヲ刻セラレタルモノニシテ其官府ヲ代表スルモノヲ云フ同一ノ適用トシテ判事

又ハ檢事某ト云フカ如ク官職ト氏名トヲ刻シタル官吏ノ印モ亦官署ノ印タリ蓋シ官署ヲ組成セル一機關タル官吏ノ行爲ヲ證明スルモノナルカ故ニ理論上亦官署ヲ代表スル印ナリト云ハサル可カラサレハナリ  
三產物商品等ニ押用スル官ノ記號徽章 產物商品等ニ押用スルモノトハ產物ハ出所又ハ商品ノ精粗眞贋等ヲ證明スル爲メニ押用スル印章記號ニシテ之ニ關スル偽造又ハ行使罪ハ多ク第三百九十二條ニ規定シタル如キ犯罪ト共ニ併發スルモノトス記號印章トアルカ故ニ印章ハ前ニ所謂印ニシテ記號トハ印類ヲ用ヒスシテ筆寫シタルモノヲ指スカ如キモ押用スル記號印章トアルニ依テ之ヲ見レハ畢竟廣キ意味ニ於ケル印ヲ發音シ得ヘキ

文字即チ普通所謂文字ヲ現出シ得ヘキモノト發音シ得ヘカラサル文字即チ三角形又ハ十字形ノ如キ符合ヲ現出シ得ヘキモノトニ種別シ前者ヲ印章トシ後者ヲ記號トシタルモノニシテ筆寫ニ依ルモノハ假令發音シ得可カラサル符合タリト雖モ一個ノ文書タルカ故ニ之カ偽造ハ文書偽造罪ヲ以テ論ス可キモノトス

四書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章 書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章トハ物件ノ所屬ヲ明ニスル爲メニ押用スル記號印章ニシテ例ヘハ日本政府圖書帝國大學圖書ト云フカ如キ圖書印東京地方裁判所檢事局用ト云フカ如キ檢印等ヲ云フ

(附言)明治二十三年十月八日法律第百號ニ依リ官ノ印ニ關スル條項ハ公署

ノ印ニ適用セラルカ故ニ市町村等公署ノ印ニ關スルモノ(公吏ノ印ハ先ニ官吏ノ印ニ付テ述ヘタルト同シタ公署ノ印タリ)ハ右第二乃至第三

ノ種別ニ從ヒ適應ノ處分ヲ爲ス可キモノトス  
第二ノ要素 偽造又ハ使用シタル所爲アルコト

偽造 偽造ノ何タルハ已ニ貨幣偽造罪ノ節ニ於テ之ヲ詳説セシヲ以テ再ヒ説明セス但一言注意ス可キハ法文ニハ印即チ先ニ説明シタル如ク或ル事實ヲ説明スル爲メ他物ニ押捺シテ常ニ一定ノ影蹟ヲ現出セシム可キ物件ヲ偽造シタル者トアリテ印影ヲ偽造シタル者トアラサルカ故ニ夫ノ單ニ官印ノ影蹟ヲ模寫シタルカ如キハ本罪ヲ構成ス可キ所爲ニ非ス然レトモ已ニ官印

ト同一ノ影蹟ヲ現出セシム可キ物件即チ印ヲ偽造シタルニ於テハ其之ニ用ヒタル印類ノ材料如何ハ本罪ノ構成ヲ妨タ可キ理由ナシ  
使用 貨幣偽造罪及ヒ文書偽造罪ノ各條ニハ行使ナル文字ヲ用ヒ官私印及ヒ印紙界紙郵便切手偽造罪ノ各條ニハ本文使用ナル文字ヲ用フルニ依テ之ヲ觀レハ是レ性質上前者ハ之ヲ第三者ニ交付又ハ提示スルニ非ズンハ之カ使用ヲ致サ、ルモ後者ハ書類其他適當ノ物件ニ影蹟ヲ現出セシメ(印適當ノ事項ヲ記載シ界紙若クハ證書又ハ郵便物等總テ之ヲ要ス可キ物件ニ貼付スルニ因リテ其使用ヲ了ルカ故ニ彼此用語ヲ異ニシテ之カ區別ヲ明ニシタルモノニシテ茲ニ使用トハ前者ト異リ依テ第三者ヲシテ錯誤ニ陥ラシムル以前ノ所爲即チ印紙界紙及ヒ切手自身ヲ使用シタルコトヲ云フ可キカ如キモ本問使用テ文字ニ相當スル第一佛文章案第二百二十八條乃至第二百三十條ノ末文ニ偽造ノ模印ヲ押捺シタル書類其他ノ物件ヲ惡意ヲ以テ使用シタル者日本文章案註解ニハ僞用ト譯セリ又第百九十七條盜用テ文字ニ相當スル同第百三十二條ニ不正ニ押捺シテ惡意ニテ用ヒタル者 *quodlibet* 用

fait une apposition illégale et un usage frauduleux 等ノ文字アリテ使用ハ押捺以後ノ所爲タルコトヲ明言セルノミナラス本罪ハ貨幣又ハ文書偽造罪ト共ニ害信用罪ニシテ信用ヲ害スルノ結果ハ偽造ノ印章ヲ押捺シタル書類又ハ其他ノ物件ヲ使用スルニ非スルハ生スルモノニ非サルニ依テ之ヲ觀レハ茲ニ使用トハ尙ホ行使ト云フカ如ク偽造偽印ヲ押捺シタルコトヲ云フニ非スシテ之ヲ押捺シタル書類其他ノ物件ヲ使用シタルコトヲ云フモノトス

第三ノ要素 意思アルコト

偽造行使共ニ第三者ヲシテ錯誤ニ陥ラシムルノ意思アルコトヲ要ス詳細ハ貨幣偽造罪ト同一ナレハ同罪ニ關スル說明ヲ參照ス可シ

處分 御覆國璽ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス別ニ說明ヲ要セス唯一言ス可キハ本罪其他同一ノ規定ニ依

次ニ藥品營業ニ付テハ別ニ取締アリ現在病ニ應ジ治療ノ目的ヲ以テ調品スルヲ藥劑ト云ヒ藥劑師ハ病ニ應ジテ治療ノ目的ヲ以テ醫師ノ處方箋ニ依リ藥劑ヲ調合スルモノ是ナリ醫師ト藥劑師トハ之ヲ兼スルコトヲ得藥劑師モ亦試驗開業免許ヲ要ス其他大體醫師ト似タリ是等ノモノハ取締上種々ノ義務ヲ負フ例ヘハ醫師ハ故ナク急病患者ノ依頼ヲ拒絕スルコトヲ得ス其他官府ノ命スルコトヲ拒ムコトヲ得サルカ如キ又藥劑師ハ醫師ノ處方箋ヲ保存シ又毒藥劇藥ノ處分箋ハ之ヲ十年間保存スルカ如キ是ナリ製藥者及ヒ製藥商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘキモノトス

藥品中ニ於テ政府カ專ラ製造販賣スルモノアリ尙ホ阿片ニ付テハ特別ノ規定アリテ之ヲ製造スルハ免許ニ依リ又製造品ハ政府之ヲ買上ケ其販賣ハ特ニ許可ヲ受ケタル販賣者ニ限リ販賣ス終リニ病院ニ付テハ種々ノ取締アリ就中私設病院ハ其設立ノ許可ヲ要シ常ニ警察ノ監視ヲ受ク

**第四節 貧民ニ對スル行政**

貧民ノ中ニ於テ全ク生活ノ需要ヲ充タスコト能ハサル者ヲ窮民ト云フ如斯者

ハ人ノ救助ナクンハ生存スルコトヲ得ス國家カ窮民ヲ救助スルハ事情已ヲ得  
 サル無告ノ窮民ニ限ル無告窮民下ハ獨身老幼廢疾疾病等ニ因リ何等ノ業ヲモ  
 爲ス能ハス事實亦貧ニシテ世ヲ他ニ保育スル者ナキ者ヲ云フ故ニ此規定ヨリ  
 スレハ救助ヲ以テ人民相互ノ情義ニ本カシムルヲ本則トシ國庫ハ之ヲ補充ス  
 ルニ止マル理論トシテハ國家ノ救助ハ全ク生活ノ途ナキ總テノ窮民ニ對スル  
 モノニアラス窮民ト爲リタル原因カ其人ノ不良ノ行爲ニ因ル者ハ寧ロ救助セ  
 サルカ至當ナリトノ説モアラン

救恤規則ハ右ノ如シ其他棄子ニ關シテ規定アリ棄子ヲ養育シ又ハ貰受ケタル  
 者アレハ或年齢ニ達スルマテ國庫ヨリ救助スルハ其ノ義務也又ハ其養育者  
 尙ホ非常ノ災害ニ因リ一時生活ノ途ヲ失ヒタル者ニハ備荒貯蓄ノ法アリテ一定  
 ノ時間小屋掛料食料農具料種穀料ヲ給付シ又ハ地租ヲ補助貸與スルコトアリ  
 次ニ行旅人ノ疾病又ハ死亡ニ對シテ救護ノ規定アリ此等ノモノハ所在地ノ市町  
 村長救護其他ノ事務ヲ執ル其費用ハ一時市町村費ヲ以テ繰換ヘ而シテ後真正  
 ノ義務者ヨリ徴收ス

尙ホ國家ハ單ニ貧民ヲ救助シテ其生活ヲ遂ケシムルノミニアテスシテ人民カ  
 貧困ニ陥ルコトヲ豫防シ又其境界ヨリ脱セシムルコトヲ努メサルヘカラス之  
 カ爲メニハ養育院等ノ設置貯蓄保險ノ獎勵及ヒ遊惰ノ民ヲ罰スルカ如キコト  
 ヲ爲サ、ルヘカラス

第五節 宗教教育行政

信教ノ自由ハ憲法ノ保障スル所ナリ即チ日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス臣民タ  
 ル義務ニ背カサル限リニ於テ信教ノ自由ヲ有ス此ノ自由ハ今日外國ニ於テモ  
 一般ニ唱道セラル、モ實際ハ純粹ニ自由ナラス例ヘハ或一二ノ宗教ニ付テ殊  
 ニ特權ヲ與フルカ如キハ何レノ國ニ於テモ行ハレ我國ニ於テモ神佛二者ハ公  
 認シ又特別ノ保護ヲ與ヘタリ神道佛道ノ各派ニ管長ヲ置ク管長ハ勅任ノ待遇  
 ヲ受クルモノニシテ其選定ハ内務大臣ノ認可ヲ要スルコト、爲レリ管長ハ其  
 教派ノ制規ヲ定メ寺院ノ住職ヲ任免シ教師ノ進退ヲ行フ權アリ教院講社等ヲ  
 新設スルニハ亦内務大臣ノ許可ヲ經ヘシ  
 神社ニ關シテハ寺院ト異ナリテ教法以外ニ神官ノ職務ヲ規定ス即チ主トシテハ

祭祀ナリ之ニ附シテ實物類ヲ管理スルコト其職務タリ神社ノ種類ハ神宮官國幣社府縣社郷社村社ニ區別ス神宮ニ在リテハ祭祀ヲ掌ル者及ヒ造營ヲ掌ル者ハ勅任以下ノ官吏ナリ然ルニ官國幣社ハ唯奏任ノ待遇ヲ受クルニ止マル此等ノ者ノ補任ハ試験ヲ行フ奏任待遇ノ者ハ内務大臣又ハ地方長官之ヲ任ス府縣社郷社村社ニ在リテハ神官ハ判任待遇ニシテ候補者中ヨリ試験ニ由リ地方長官之ヲ任ス

官吏懲戒令ハ此等ノ者ニモ適用又ハ準用セラル社寺ヲ創設、移轉、廢合、改稱スルニハ許可ヲ要ス其維持ハ神宮ニ在リテハ國費ニ依リ官國幣社ニ在リテハ國庫ハ一定ノ年期間保存費ヲ下付ス其他社寺地ハ地租ヲ免除セラル、カ如キ特權アリ尙ホ社寺ノ財産處分ニ付テ制限アリ

次ニ教育行政ヲ説クニ當リ之ヲ別テテ小學教育、中等教育及ヒ高等教育トス國家ハ固ヨリ教育ノ普及ヲ謀リ國民ノ文化ヲ進ムルコトヲ勤メサルヘカラス然レトモ學術殊ニ高等ナル學問ハ國家ノ干渉スルハ却テ弊害ヲ起スコトアリ故ニ高等教育ニ付テハ放任主義ヲ原則トス而シテ最モ國家ノ干渉スヘキハ小

年度ノ開始前ニ之ヲ議了セサルヲ得ス故ニ次ノ會計年度ノ開始前ニ開期ヲ終了スヘキ猶豫ヲ存シテ開會スレハ則チ足ルト云フ説ヲ立ツルコトヲ得此説ハ開會ヨリ會期ヲ計算スルモノニシテ予ノ計算方法トハ全ク異ナル説ナリ又第二ニハ議會ノ會期ハ議會ノ作用ヲ始ムル時ヨリ起算スヘキモノニシテ其會期中ニ開會スレハ則チ足ル故ニ解散後ノ議會ニ於テハ會期ノ盡ル日ニ於テ開會スルモ毫モ差支ナシ通常會ニ於テハ總豫算ヲ議定スヘキモノナルカ故ニ之ヲ議定スルニ必要ナル法律上ノ期間ヲ存スレハ則チ可ナリ而シテ議院法第四十條ニハ豫算委員ハ豫算案ヲ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査報告スヘトアルカ故ニ少クとも會期ノ盡クル十五日以前ニ開會スレハ足ルト此説ニ據レハ開會ノ日ヨリ幾日間ヲ經テ開會スヘトノ規定ナシ即チ閉會ト開會トノ間ニ幾日間ヲ存セサルヘカラサルカノ法律上ノ制限ナキカ故ニ唯開會ノ命令ヲ下シ又閉會ノ命令ヲ下シタニスレハ憲法議院法ニ毫モ牴觸スル所ナキカ故ニ總令一日間ニ開會閉會スルモ不可ナシト謂ハサルヘカラス唯通常會ノ場合ニハ總豫算ヲ提出セサルヲ得サルカ故ニ議院法ノ規定ニ從ヒテ閉會ヨリ十五日前

ニ開會スレハ可ナリト謂ハサルヘカラスルニ至ル然レトモ苟モ議會ヲ召集スル以上ハ唯議院ノ成立ニ開スル作用ノミナラス法律豫算等ヲ適當ニ議定セ得ヘキ期間ヲ存セサルヘカラスト思惟ス故ニ予ノ解スル所ニ據レハ議會ニシテ成立スレハ直チニ開會セサルヘカラスト信ス若シ然ラストモハ議會ノ召集ハ全ク意味ナキニ了ラシナリ殊ニ豫算案ノ如キハ一兩日間ニ議了スルコトノ到底望ムヘカラサルコトナリ斯ル爲シ能ハサルコトヲ法律カ豫メ定ムルトセハ則チ法律ハ豫算ノ議定ヲ初メコリ希望セサルモノト謂ハサルヘカラス故ニ第二說ノ解釋ノ如キハ決シテ穩當ナル解釋ト謂フコトヲ得ス且予ノ信スル所ニ據レハ毎年若クハ五ヶ月以内ニ召集ストアレハ毎年若クハ五ヶ月以内ニ召集開會ストノ意味ナリト信ス固ヨリ召集當日ニ開會セサルヘカラスト謂フニアラサルモ召集ハ議會ノ作用ヲ爲サシムル爲メニ各議員ヲ集會セシムルモノナリ故ニ五ヶ月以内ニ召集スヘシトアレハ五ヶ月以内ニ開會セテ議會ノ作用ヲ惹起サシムヘシトノ意味ナリト信ス

モ議院法第三十三條ニハ政府ハ何時タリトモ停會ヲ命スルコトヲ得トアルモ政府カ獨立シテ之ヲ命スルヲ得ルニアラス天皇ノ命ヲ奉シテ之ヲ爲スヘキモノナリ此停會ハ十五日以上ニ亘ルコトヲ得ス外國ノ憲法ニ於テハ一會期中ニ停會ヲ重スルコトヲ得ストノ規定ヲ設クル者アレトモ我國ニ於テハ此ノ如キ規定ナキカ故ニ一會期中ニ幾度之ヲ行フモ妨ケナシ此停會ノ命令アレハ貴族院衆議院共ニ其議事ヲ總テ中止セサルヘカラス然レトモ其停會ノ期間ヲ經過スレハ再ヒ召集開會スルヲ要セス又未ダ議了セサリシ議案ヲ再ヒ提出スルヲ要セスシテ前ノ議事ヲ其儘繼續スルコトヲ得ルナリ

一タヒ召集開會セラレタル議會ハ恣ニ自ラ其議事ヲ中止シテ停會スルコトヲ得ス然レトモ議長ハ自ラ其議事日程ヲ定ムルコトヲ得而シテ其議事日程ノ中間ニ多少ノ休息時間ヲ挿ムコトヲ得是レ議案ノナキ場合又ハ委員會ニ調査ノ猶豫ヲ與フルニ必要ナリ其他各議員ノ申合ニ因リテ集會セサルコトナリ斯ル場合ハ之ヲ休會ト曰フ休會ハ事實上停會ト酷ク相似タルモ法律上同一ノモノニアラス停會ハ議會ノ總テノ作用ヲ停止スヘキモノニシテ縱令停會中ニ議決

憲法

スルコトアルモ是レ無効ノ議決ナリ然レトモ休會ハ唯事實上其議事ヲ中止スルニ過キサルモノナリ豫メ休會ノ期間ヲ定メタル場合ト雖モ何時ニテモ議會ハ集會シテ議事ヲ開クコトヲ得停會ハ法律上其作用ヲ爲スコトヲ許ササルモノナリ休會ハ唯事實上議會カ其作用ヲ中止スルモノナリ

委員會ニ依リテ議院法ニ依レハ停會ノ期間經過後ハ別ニ召集ノ日ヨリ開會マテノ期間ヲ閉フ再ヒ會合シテ前回ノ議事ヲ繼續スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ停會ノ期間中モ仍ホ會期中ニ屬スルモノト謂ハサルヘカラス

此帝國議會ノ停會ノ衆議院解散ノ時ノ貴族院ノ停會トハ全ク其性質ヲ異ニスルモノナリ解散ハ唯衆議院ニノミ行フモノナルモ兩院制度ノ原則トシテ貴族院ト衆議院トハ總テ同時ニ作用セサルヘカラスナルカ故ニ衆議院解散ノ場合ニハ貴族院獨リ其作用ヲ爲スコトヲ得ス故ニ停會ト爲ルモノナリ然レトモ衆議院カ解散セラレテ新ニ議員ヲ選舉シタル後ハ兩院ヲ共ニ新ニ召集セテ會期ヲ新ニセサルヘカラス隨テ通常ノ停會ノ場合ニハ再ヒ前會ノ議事ヲ繼

續スルコトヲ得ルモ解散ノ時ノ停會ハ會期カ更新セラル、ヲ以テ前會ノ議事ヲ繼續スルコトヲ得ス故ニ通常ノ停會ト衆議院ノ解散ノトキノ貴族院ノ停會ハ全ク其性質ヲ異ニスルモノナリ此場合ノ貴族院ノ停會ハ閉會ト其効力ヲ同シクスルモノナリ

帝國議會ノ閉會ハ勅令ニ依リテ之ヲ行フ此停會ハ議會ノ一切ノ作用ヲ閉止スルモノニシテ閉會後ハ有効ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス即チ閉會ハ會期ヲ終了スルモノナリ閉會ハ停會ト異ニシテ議事ヲ次會ニ繼續スルコトナシ故ニ議案又ハ請願等ノ未タ議決ニ至ラザリシモノハ總テ後ノ會ニ繼續スルコトナク全ク消滅スルモノナリ次ノ會ニ於テ再ヒ之ヲ議スルニハ更ニ相當ノ手續ヲ要ス又已ニ閉會アレハ委員會モ亦其議事ヲ繼續スルコトヲ得ス但政府ノ要求又ハ其同意ヲ得タルトキハ議會閉會ノ時ニ於テモ仍ホ委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得此閉會ハ何時之ヲ命スヘキカ通常會ノ會期ハ三箇月ナルコトハ憲法ノ規定スル所ナリ故ニ天皇ハ通常會ノ場合ニハ此三箇月ノ期間ノ滿了前ニ閉會ヲ命スルコトヲ得ス此規定ハ閉會ノ命令ヲ下ス時期ニ制限ヲ加ヘ

タルモノナリ然レトモ天皇ハ會期ヲ延長スルコトヲ得而シテ會期ノ延長ハ明示ヲ以テスルコト通常ナレトモ默示ヲ以テスルモ何等ノ妨ケナシ故ニ若シ三箇月ノ會期盡クルモ仍ホ閉會ノ命令アルニアラザレハ默示ヲ以テ會期ヲ延長シタルモノト解釋セサルヘカラス隨テ閉會ノ命令アルマテハ議會ハ其作用ヲ繼續スルコトヲ得之ニ反シテ天皇ハ臨時會及ヒ衆議院解散後ノ議會ニ於テハ任意ニ其會期ヲ定ムルコトヲ得ルカ故ニ一タヒ定メタル會期ノ未タ盡キサルモ仍ホ閉會ノ命令ヲ下スコトヲ得是レ曾テ廣嶋議會ニ於テ實際ニ生シタルコトナリ斯ル事ハ決シテ違法ニアラス苟モ會期ヲ自由ニ定ムルコトヲ得ハ一タヒ定メタルコトヲ伸縮スルモ亦任意ナリト謂ハサルヘカラス故ニ此ノ場合ニハ豫メ定メタル會期ノ滿了前ニ於テモ亦滿了後ニ於テモ閉會ヲ命スルコトヲ得滿了後數日ニテ閉會アレハ會期カ延長セラレタルモノトセサルヘカラス故ニ議會ハ總テ閉會ノ命令アルマテハ其作用ヲ有効ニ爲スコトヲ得ト謂ハサルヲ得ス

解散ト曰フ解散ハ勅命ヲ以テ衆議院ニ對シテノミ行フモノナリ解散アレハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメテ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ帝國議會ヲ召集セサルヘカラス解散ノ効力ハ衆議院議員ノ任ヲ解クニ在リ即チ議員ノ資格ヲ其任期ニ先チ剝奪スルモノナリ議會ハ開會中ニ於テ衆議院解散セラレタルトキハ同時ニ議會ノ作用ヲ閉止スヘキ効力ヲ生ス何トナレハ解散ノ時ヨリ一モ有効ノ議員存在セサルヲ以テナリ解散ハ議會閉會中ニ於テモ仍ホ之ヲ行フコトヲ得ルヤ多少ノ疑アリ或ハ曰ク衆議員ヲ解散スト云ヘハ既ニ衆議院ノ存在ヲ前提トシタルモノナラサルヘカラス而シテ衆議院ノ存在ハ少クモ召集ヲ受ケテ議院ノ成立シタル後ナラサルヘカラス議會閉會中ハ衆議院ハ存在スト謂フコトヲ得ス閉會中ハ個々ノ議員ハ在ルモ各議院ハ存在スルコトナシ存在セサル議院ハ之ヲ解散スルコトヲ得ス憲法ニモ衆議院議員ノ解散トナクシテ衆議院ノ解散トアリ故ニ召集成立シタル後ニ於テ衆議院ノ解散ヲ命スルコトヲ得ルノミニシテ閉會中ニハ解散ヲ行フコトヲ得スト然レトモ此ノ說ハ解散ノ意味ヲ誤解シ解散ヲ以テ集合體ヲ解キ散ラスト云フ意味ニ解シタルモノナ

リ然レトモ解散ノ意味ハ必スシモ此ノ如キモノニアラス又憲法ニ衆議院議員  
 ノ解散トナクシテ衆議院ノ解散トアルモ之カ爲メニ閉會中ハ解散スルコトヲ  
 得スト謂フコトヲ得ス若シ此ノ如ク言フトキハ帝國議會ヲ召集スルト謂フ如  
 キコトモ言ヒ得サルヘシ何トナレハ論者ノ言ニ從ヘハ召集ナケレハ未タ帝國  
 議會ハ存在セサルヲ以テナリ予ノ考フル所ニ據レハ議會閉會中ニ於テモ仍ホ  
 衆議院ヲ解散スルコトヲ得ト信ス何トナレハ解散トハ議員ノ資格ヲ其任期ニ  
 先チテ消滅セシムルモノニシテ閉會中ニ於テモ仍ホ之ヲ爲スコトヲ得ルヲ以  
 テナリ或ハ憲法第四十四條第二項ニ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院  
 ハ停會ストノ規定アルカ故ニ閉會中ノミニ解散ヲ行フヘキモノナリト云フ者  
 アルモ是レ唯閉會中ニ解散シタルトキニ貴族院ヲ停會スト云フ規定ニ過キス  
 シテ之カ爲メニ閉會中ニ解散スルコトヲ得ストノ論決ヲ生セス且衆議院ノ解  
 散ハ惟リ政府ト議員トノ意見ノ衝突シタルトキノミニ行フモノニ限ラス議員  
 ノ任期ト通常ノ選舉期日ト相合セスシテ選舉期日經過後ニ任期カ滿了ル場  
 合ニハ其議員ノ任期ニ先チ其資格ヲ剝奪シテ通常ノ選舉期日ニ新議員ヲ選舉

○編輯上ノ用向ハ必ス編輯部宛ニテ通  
信スヘシ

○質疑ハ半紙又ハ罫紙ニ問題ト其疑點  
トヲ簡明ニ認ムヘシ

用紙ハ一問題毎ニ別紙ヲ用フヘシ  
半切葉書又ハ他ノ用事ト共ニ認メタ  
ル質疑ハ回答セズ

亂筆讀ミ難キモノ趣意不明ナルモノ  
亦同シ

○落丁補充ノ請求ノ際ハ必ス其講義錄  
ヲ返戻スヘシ

○編輯用ト會計用トハ必ス別封タルヘ  
シ

葉書ノ場合モ之ニ準ス

明治三十三年十一月廿九日印刷  
明治三十三年十一月三十日發行

東京市四谷區四谷中町三丁目六番地

編輯兼 小田幹治郎

發行者 東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷者 金子鐵五郎

印刷所 東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

金子活版所

發行所 司法省 和佛法律學校

所在 (東京市麴町區富士見  
町六丁目十六番地)

電話 (番町百七十四番)

明治三十三年十一月九日內務省許可